
遊戯王 鋼鉄の旅人

蛇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 鋼鉄の旅人

【Nコード】

N1098M

【作者名】

蛇

【あらすじ】

バナナの皮ですべて転んで頭をうつて死んだ俺、鋼野 龍一はその死に方を哀れに思った神様から第二の人生をプレゼントされた。それは遊戯王GXの世界に転生するというものだった。初投稿な上にオリカが大量に含まれております。それでもがんばって書くのでよろしくお願いします

いつのまにか100000アクセス突破しました！これからもよろしくお願いします

プロローグ(前書き)

プロローグになります

プロローグ

何も無い真っ白な空間。そこに俺、鋼野 龍一はいた

「ここはどこだ？俺は死んだはずじゃ……」

「こんにちは、龍一君」

いつの間にか俺の後ろに真っ白な服を着た子供が立っていた

「……なんだガキか」

「ガキとは失礼な！私は神様だぞ！偉いんだぞ！」

「神様だって？うそつけ神様ってのはもっとうこう仙人みたいな爺さんとかだろ」

「イメージにとらわれてちゃダメダメ！神様だっているいろいろなんだよ」

「……で、その神様（仮）が俺に何の用だ？」

「（仮）をつけるな！本当に神様だ！まったくせつかく転生のチャンスをやろうと思ったのに」

「転生のチャンス？どういう意味だ」

「なーに君の死に方があまりに哀れなものだったからね、第二の人生をプレゼントしてあげようと思ってこの世界につれてきたのさ」
俺の死に方、バナナの皮ですべて転んで頭うって死亡。たしかに哀れだ

「で、どんな新しい人生をプレゼントしてくれるんだ？」

「えーと、遊戯王GXの世界で第二の人生をスタートすることにな
ってるよ」

「遊戯王GXの世界？と言われてもデツキがないぞ」

「ご心配なく、こっちで用意してあるから。後、精霊を一体つけて
おくからね。」

「精霊？それってカードの精霊のことか？」

「そう、カードの精霊さ。精霊がいたほうがなにかと便利だろうし
ね。どんな精霊かは転生してからの楽しみ。じゃあ早速いつてら
っしゃい」

神様（仮）がそういうと俺の足元に穴があいた

「へっ？うわあああ！」

俺はその穴に落ちていったこれから俺はどうなるんだ？

プロローグ（後書き）

感想をいただけるとうれしいです

第一話 鋼鉄戦士出撃！（前書き）

はい第一話になります

第一話 鋼鉄戦士出撃！

「……おい……おい！さっさと起きろ！」

「わっ！なんだなんだ？」

俺が目をさますと目の前に赤いマントをつけたどこかカッコイイロボットがいた

「やっと目をさましたか。俺様は鋼鉄神ラハール、お前の精霊だ」
こいつが俺の精霊……なんかどつかの魔王みたいな喋り方だな
「それよりはやくしないと試験に遅れるぞ」

「えっ？試験？」

「デュエルアカデミアの入学試験だろうが頭大丈夫か？」

「まじかよ……」

それを聞いた俺は近くにいた人から道を教えてもらいなんとか試験会場についた

「すいませんまだ試験は受けれますか！？」

「ああまだ大丈夫だ。だが急いだほうがいいぞ」「ありがとございます！」

俺は急いで会場に入った

会場に入るとちょうど十代がクロノスにとどめをさすところだった
「いけ！フレイム・ウイングマン！スカイスクレイパーシユート！
！」

「マンマミィヤア！」

『それでは受験番号90番の方、デュエルフィールドに出てきて下さい』

「俺の番か・・・」

俺がデュエルフィールドにあがるとなぜかクロノスがいた

「私があなたの試験を担当するクロノスなノ〜ネ」

クロノスが試験官か・・・面白い！相手にとって不足は無しだ！

「受験番号90番、鋼野 龍一です。よろしくお願いします。」

「デュエル！！」

「先攻はいただきます、俺のターン、ドロー！」

この手札なら・・・

「俺は手札から『天使の施し』を発動！カードを3枚引いてその後カードを2枚捨てる」

周囲からいくつかのどよめきが聞こえる。手札事故をおこしたとでも思っているのか？

「さらに俺は手札から『鋼鉄戦士 ドリル・クラスタ』を召喚！効果で『鋼鉄戦士 ジェット・クラスタ』を手札に加える」

鋼鉄戦士 ドリル・クラスタ

星4

ATK：1500

DEF：1700

効果：このカードの召喚、特殊召喚に成功したときデッキから鋼鉄戦士と名の付く星4以下のモンスターを一枚手札に加えることができる

「カードを一枚伏せターンエンド」

龍一

LP：4000

手札：6枚

モンスター：1

魔法・罫：1

「私のターン、ドローニヨ。私は手札から『トロイホース』を攻撃表示で召喚するノ〜ネ。」

『トロイホース』。つてことは！

「さらに手札から『デュアル・サモン二重召喚』を発動しま〜ス！このカードの効果により、私はもう一度通常召喚を行えるノ〜ネ！」

やっぱり・・・

「私は『トロイホース』を生け贄に、いでよ！『アンティーク・ギア古代の機械巨人』
！！」

でてきやがったか『古代の機械巨人』！

「『古代の機械巨人』で『鋼鉄戦士 ドリル・クラスト』に攻撃！アルティメット・パウンド！」

「この瞬間墓地の『鋼鉄戦士 ガード・クラスター』の効果発動！このカードを墓地から除外することでこのターン俺が受ける戦闘ダメージは0になりモンスターも戦闘によっては破壊されない！」

「いつの間になんなカードを墓地に？さっきの『天使の施し』ですーカ！」

「その通りですよ、先生」

「グヌヌ、私はこのままターンを終了するノ〜ネ」

クロノス

LP：4000

手札：3枚

モンスター：1

魔法・罫：0

魔法・罫を伏せなかったか・・・好都合！

「俺のターン！ドロ〜！手札から『鋼鉄戦士 ジェット・クラスター』を召喚！そして『鋼鉄戦士 ジェット・クラスター』の効果発動！このモンスターの召喚、特殊召喚に成功したときこのカード以外の鋼鉄戦士と名の付くモンスターが存在するとき、相手フィールド上のカード一枚を相手の手札に戻す！」
「ジェット・クラスターがおこした暴風が古代の機械巨人を手札に戻す。」

鋼鉄戦士 ジェット・クラスター

星4

ATK：1600

DEF：1800

効果：このカードの召喚、特殊召喚に成功したとき自分フィールド上にこのカード以外の鋼鉄戦士と名の付くモンスターが存在するとき相手フィールド上のカード一枚を手札に戻すことができる。

「さらにジェット・クワスターとドリル・クワスターの二体を除外しあらわれる！『鋼鉄戦士 マックス・クワスター』！！」
ジェット・クワスターとドリル・クワスターの二体が空中で変形・合体を行い一体の巨人が姿をあらわす。

鋼鉄戦士 マックス・クワスター

星7

ATK：2700

DEF：2500

効果：鋼鉄戦士 ジェット・クワスター + 鋼鉄戦士 ドリル・クワスター このモンスターを融合召喚するとき融合は必要としない。自分フィールド上に存在する上記のカードをゲームから除外した場合のみ、融合デッキから特殊召喚することができる。1ターンに1度相手モンスター一体の表示形式を変更することができる。このモンスターが守備表示モンスターを攻撃したとき、そのモンスターの守備力を攻撃力がこえていた場合その差ぶん相手LPにダメージを与える

「いくぞ！マックス・クワスターでダイレクトアタック！インパクト・ナックル！！」

「ひぎいやああ！」

クロノス

LP：4000 1300

「まだだ！リバーズカードオープン速攻魔法『合体解除』！このカードの効果によりマックス・クラスターの合体を解除し除外されている二体の鋼鉄戦士を特殊召喚！そして二体でダイレクトアタック！」

「ペーペロンチーノ！」

クロノス

LP：1300 0

「よっしゃあ！」

こうして俺はクロノスに勝ったのであった

第一話 鋼鉄戦士出撃！（後書き）

主人公の初デュエルでした感想まっています

第二話 鋼鉄神は高笑いとともに(前書き)

いきなり万丈目の取り巻きとのデュエルです

第二話 鋼鉄神は高笑いとともに

俺はクロノスを倒した者どうし十代と仲良くなっていた。同じオシリスレッドでもあるため翔とも仲良くなった。で、現在の状況なのだが……

「俺のターン！ドロー！」

万丈目の取り巻きの一人とデュエルしている。隣では万丈目と十代がデュエルしている。なぜこんな状況になったかというところ

昼に万丈目達とトラブル 万丈目に夜呼び出される 十代は万丈目と俺は取り巻きAとアンティールでデュエルするように言われる 現在にいたる。というわけだ。

「俺は『鋼鉄戦士 サモン・クラスタ』を召喚さらに手札を一枚捨てサモン・クラスタの効果発動！デッキから星3以下の鋼鉄戦士と名の付くモンスターを一体特殊召喚することができる。俺は『鋼鉄戦士 シールド・クラスタ』を召喚！」

鋼鉄戦士 サモン・クラスタ

星4

ATK：1000

DEF：1500

効果：このモンスターを攻撃表示で召喚したとき守備表示に変更する。手札を一枚捨てることでデッキから星3以下の鋼鉄戦士と名の付くモンスターを一体特殊召喚することができる。この効果は1ターンに1度しか使えない

鋼鉄戦士 シールド・クラスター
星3

ATK:500

DEF:2000

効果:なし

「カードを一枚伏せターンエンド」

龍一

手札:3枚

モンスター:2

魔法・罫:1

「ふん、所詮はドロップアウト。ザコモンスターを並べることしかできないか。」

「御託はいい、さっさとかかっきな」

「なんだと！ドロップアウトが！後悔させてやる、俺のターン、ドロ！俺は『ゴブリン突撃部隊』を攻撃表示で召喚！さらに装備魔法『デーモンの斧』を発動！『ゴブリン突撃部隊』に装備する！攻撃力がいくら高くてもなあ……」

「いくぞ！『ゴブリン突撃部隊』で『鋼鉄戦士 サモン・クラスター』を攻撃！」

「墓地の『鋼鉄戦士 ガード・クラストー』の効果発動！このカードを除外することでこのターン俺が受ける戦闘ダメージを0にしモンスターは戦闘によっては破壊されない！」

「ちっ！俺はカードを1枚伏せターンエンドだ！（俺が伏せたのは『聖なるバリア・ミラーフォース』だ、これでどんなモンスターをだしてこようが無駄だ）」

取り巻きA

手札：3

モンスター：1

魔法・罠：2

「俺のターン、ドロー！サモン・クラストーの効果を使いもう一体のシールド・クラストーを特殊召喚するそしてこの三体を生け贄にささげ」

「三体生け贄だと！」

「あらわれる！『鋼鉄神 ラハール』！」

「ハアーハツハツハツ！俺様参上！」

大きな高笑いとともに俺の精霊でもあるラハールが出現する

鋼鉄神 ラハール

星10

ATK：4000

DEF：4000

効果：このカードは特殊召喚できない。自分フィールド上に存在するモンスター3体を生け贄に捧げた場合のみ通常召喚することができる。このカードの召喚に成功したとき相手フィールド上に存在するカードすべて破壊する。このカードは魔法・罠の効果を受けない

「『鋼鉄神 ラハール』の効果発動！このカードの召喚に成功したとき相手フィールド上のカードをすべて破壊する！やれ！大・破壊！」

「なに！うわあああ！」

ラハールがマントをひろげると巨大なミサイルが出現、取り巻きAのフィールドのカードをすべて破壊する。・・・あんなミサイルどこにしまってたんだ？

「ラハールでダイレクトアタック！鋼・鉄・斬！」

「うわあああ！」

ラハールが今度はマントから巨大な剣を取り出し取り巻きAを斬る。お前のマントは四次元マントか？

こうして俺は取り巻きAに勝った。十代のほうは明日香がガードマシナがきたと言って中止になった。余談だがおれはアンティでカードをうけとらなかつた。なぜって？ほたなカードを俺のデッキにいれるとデッキがまわらなくなるからさ

第二話 鋼鉄神は高笑いとともに（後書き）

十代が一言もしゃべってないや。次の話ではしゃべらせませます。次回いよいよヒロインの登場です

第三話 ヒロイン登場！そしていきなりの告白（前書き）

第三話になります

第三話 ヒロイン登場！そしていきなりの告白

「龍一！大変だ！翔がさらわれた！」

十代がいきなり部屋に入ってきた

「翔がさらわれた？どういうことだ？」

「マルフジシヨウヲアズカッテイル、カエシテホシクバハガネノリ
ユウイチトトモニジヨシリヨウマデコラレタシってメールがきたん
だ！だから龍一お前もきてくれ！」

「……わかった友のために一肌脱ごうじゃねえか！」

「さすが龍一だぜ！じゃあ、早速……」

「どうした十代？」

「女子寮ってどこだっけ？」

「はぁ……こっちだついて来い」

「おう！」

で、今俺達は女子寮の前の池を船で進んでいる。向かう先の船の上には五人の人影が見える。……五人？四人はわかるが後一人

はだれだ？そんなことを考えてるうちについた。

「来たわね十代、そして龍一」

「一つ質問いいか？」

「なにかしら？」

「十代はわかるがなんで俺まで呼んだんだ？」

「あなたは彼女からの『指名』よ」

そう言つて明日香が指さした先には茶色のショートカットでスタイルのいいボーイッシュな感じの子がいた

「はじめまして、龍一君。うちの名前は音宮 鈴音。よろしゅうな」

「ああよろしく。で、なんで俺を呼び出したんだ？」

「それはな、うちがあんたに一目惚れしたからや！」

「……はあ？」

「鈴音、あなたもしかしてそんなくだらない理由で龍一を呼び出したの？」

「くだらない理由なんかじゃないで明日香。うちは試験会場で龍一を初めて見たときから恋におちてしもつたんや！」

「……」

流れについていけない俺

「そういうわけで龍一うちとデュエルや！うちが勝ったらうちと付き合っ。うちが負けたらうちがあんと付き合っ」

「ふむふむってちょっと待て！それじゃどっちにしる付き合っことになるじゃねえか！」

「なんや文句は言わせへんで？こっちは人質があるんやからな」

「龍一君……」

「くそっ、わかったその条件でデュエルしようじゃねえか」

「ほんまに！？やったー！じゃあいくで〜」

「「デュエル！」「」

「先攻はもらっで！うちのターン！ドロー！うちはモンスターを一体セット、カードを二枚伏せてターンエンドや」

鈴音

LP：4000

手札：3

モンスター：1

魔法・罠：2

「俺のターン！ドロー！」

「この瞬間、リバーズカードオープン！畏発動『バックファイア』
！炎属性モンスターが破壊されるたびに500ポイントのダメージ
を受けてもらうで」

「『バックファイア』、やっかいなカードを・・・俺は手札か
ら『鋼鉄戦士 ドリル・クラスター』を攻撃表示で召喚！効果で『
鋼鉄戦士 ジェット・クラスター』を手札に加える。さらに装備魔
法『アタックパーツ』を発動！ドリル・クラスターに装備！」

アタックパーツ

装備魔法

効果：このカードは『鋼鉄戦士』と名の付くモンスターにしか装備
できない。このカードを装備したモンスターは攻撃力が300ポイ
ントアップする。このカードを装備したモンスターが戦闘によって
相手モンスターを破壊したとき相手LPに500ポイントのダメー
ジを与える。

「いくぞ、ドリル・クラスターでセットモンスターに攻撃！」

「うちのセットモンスターはUFOタートルや」

「『アタックパーツ』の効果で500ポイントのダメージを受けてもらう」

「こつちも『バックファイア』の効果で500ポイントのダメージを受けてもらうで」

龍一：LP4000 3500

鈴音：LP4000 3500

「さらに『UFOタイトル』の効果で『プロミネンス・ドラゴン』を攻撃表示で特殊召喚するで」

「またやっかいなモンスターを、俺はカードを一枚伏せてターンエンドだ」

龍一

手札：5枚

モンスター：1

魔法・罠：1

「うちのターンドロ！うちはもう一体の『プロミネンス・ドラゴン』を召喚してターンエンドやそして二体の『プロミネンス・ドラゴン』の効果で1000ポイントのダメージをうけてもらうで」

「ぐぐっ！」

龍一：LP3500 2500

鈴音

LP：3500

手札：3

モンスター：2

魔法・罫：2

「俺のターンドロ！俺は『鋼鉄戦士 ジェット・クラスター』を召喚、ジェット・クラスターの効果で一体の『プロミネンス・ドラゴン』を手札に戻す。そして場の二体を除外しあらわれる『鋼鉄戦士 マックス・クラスター』！さらにマックス・クラスターの効果発動！相手モンスター一体の表示形式を変更する。俺は『プロミネンス・ドラゴン』を守備表示に！」

「『プロミネンス・ドラゴン』を守備表示に？なんでわざわざそんなことを」

「マックス・クラスターは守備貫通能力を持っている」

「なんやてー！」

「マックス・クラスターで『プロミネンス・ドラゴン』を攻撃、インパクト・ナックル！」

鈴音：LP3500 1800

「ふう、やるやん。さすがはうちのダーリンや」

「だれがダーリンだ！」

「いいやんこれからなるんやし。バックファイアの効果で500ポイントのダメージやで」

「くっ！」

龍一：LP2500 2000

「俺はこのままターンエンドだ」

龍一

LP：2000

手札：3枚

モンスター：1

魔法・罠：1

「うちのターン、ドロ―！うちは手札から『プロミネンス・ドラゴン』を召喚するで。さらにリバースカードオープン『リビングゲッター』の呼び声』発動！効果で墓地の『プロミネンス・ドラゴン』を特殊召喚するで！これでターンエンドや。そしてエンドフェイズに二体の『プロミネンス・ドラゴン』の効果で1000ポイントのダメージをうけてもらっついで」

「ぐう！」

龍一：LP 2000 1000

鈴音

LP：1800

手札：3

モンスター：2

魔法・罫：2

「このままだと龍一君負けちゃうよ！」

「大丈夫だつて翔、龍一は勝つ、絶対にな」

明日香とのデュエルを終えた十代が言う通り龍一の目は、あきらめていなかった。

「面白くなつてきたぜ俺のターン、ドロー！」

龍一が引いたのは・・・

「俺は手札から『合体命令』を発動！効果で手札の『鋼鉄戦士 サ
ブマリン・クラスター』と『鋼鉄戦士 タンク・クラスター』の二
体を除外し『鋼鉄戦士 ハザード・クラスター』特殊召喚！」

合体命令

通常魔法

効果：自分のフィールド上または手札から融合モンスターカードに

よって決められたモンスターをゲームから除外し、『鋼鉄戦士』と名のついた融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。

鋼鉄戦士 ハザード・クラスター

星7

ATK:2600

DEF:2800

効果：鋼鉄戦士 サブマリン・クラスター+鋼鉄戦士 タンク・クラスター このモンスターを融合召喚するとき融合は必要としない。自分フィールド上に存在する上記のカードをゲームから除外した場合のみ、融合デッキから特殊召喚することができる。攻撃力を半分にすることによりこのモンスターは相手プレイヤーにダイレクトアタックすることができる。このモンスターが攻撃表示で自分フィールド上に存在するとき表示形式を1回だけ変更することができる。エンドフェイズ時このモンスターが守備表示のとき相手に800ポイントのダメージを与える。

「ハザード・クラスターの攻撃力を半分にし相手プレイヤーにダイレクトアタック、スクリュー・ナックル！」

「きゃあああ！」

鈴音：LP1800 500

「さらにハザード・クラスターの効果で守備表示にしターンエンド！」

「なんや勝ちをあきらめたんか？」

「まだまだ！エンドフェイズ時ハザード・クラスターが守備表示のとき相手に800ポイントのダメージを与える」

「なんやてー！」

「サブマリンミサイル！」

「さすがはうちの惚れた男や……」

鈴音：LP5000

「じゃあー！」

こうして俺は勝利と彼女（仮）をてにいれたのだった

第三話 ヒロイン登場！そしていきなりの告白（後書き）

感想まっです

キャラ紹介（前書き）

キャラ紹介になります。本編未登場のキャラがいますが、すぐに登場させるのできにしないでください

キャラ紹介

鋼野 龍一 はがねのりゅういち

人間

性別：男

性格：困った人は見過ごせない熱血漢。

身長：185cm

体重：60kg

所属：オシリスレッド

デッキ：鋼鉄戦士を主体とした機械族デッキ

見た目：ブリーチの一護を黒髪にした感じ

補足：ラハールの扱いに困ったり鈴音に振り回されたりと苦労がたえなかつたりする。トリップするきっかけがバナナの皮ですべって転んで死というくらいだから運も以外と悪かつたりする

鋼鉄神ラハール

龍一の精霊

性格：自己中心的、我が儘見た目：カツコイイロボット。赤い四次元マントをつけている

補足：世界は自分を中心に回っているかと思っている。その性格ゆえに普段はカードの中、龍一にデュエル以外で手をかすのはまれ

音宮 鈴音 おとみやまのりね

人間

性別：女

性格：明るくマイペース

身長：169cm

体重：乙女の秘密や

スリーサイズ：大きい／細い／引き締まっている

所属：オベリスクブルー

デッキ：炎属性中心のバーンよりデッキ

見た目：ショートカット、ぱっちりした目、関西弁＋可愛い

補足：龍一に一目惚れし翔を利用し無理矢理付き合う。龍一も満更ではないらしい

火ぎつね

鈴音の精霊

性格：大人しい

補足：人見知りがはげしいため滅多にでてこない。決して作者が出すタイミングがわからないわけではない

第四話 月一試験！（前書き）

小説書くのは大変だな

第四話 月一試験！

俺は今月一試験にむけて十代達と試験勉強の真っ最中！のはずだったんだが……

「どうか、お願いしますう」

「むにやむにや、俺のターン！」

翔はなぜか死者蘇生に神頼みしてるし十代は寝てるし、真面目に勉強してるの俺と隼人だけかよ。

「龍一、ここはどうやるんだなあ？」

「ん？ああそこはな……」

隼人に勉強を教えるうち眠くなった俺は自分の部屋に戻ってそのまま寝た。そして翌日。

「遅刻だあ！」

俺と十代は仲良く走っていた。途中トメさんを助けたりしたが、なんとか筆記試験に間に合った。

昼休み

三沢が翔と十代を起こしている。

「なんやダーリン遅刻してきて、なんなら今度からうちが起こしに
いってあげよか？」

「別にいい、普段はちゃんと起きれる。あとダーリンって呼ぶな」

「ちえっ、なら購買にいかへん？今日新しいカードが売り出される
んやて」

「それもいい。へたなカードをいれたらデッキが上手くまわらな
くなる」

それに原作通りならクロノスが買い占めちまうはずだからな

「なんや、付き合い悪いな。うちら恋人どうしやる？」

「それとこれとは別だ」

鈴音と話しをしてるうちに実技試験の時間になった。が、そこで問
題が発生した。

「いかかでスノ遊戯十代くん？鋼野龍一くん？この申し出、受け
る気になりますですかスノ？」

クロノスが寮の昇格を餌に万丈目とのデュエルを強要してきた。寮
の昇格はともかく万丈目とのデュエルはいい経験になるだろう。
十代と俺は了承した。

「『E・HEROフェザーマン』でダイレクトアタックだ！」

「うわあああああ！」

万丈目：LP10000

「龍一！頑張れよ！」

「ああ」

俺は十代とハイタッチして代わった。

「くそっ！この鬱憤は貴様で晴らしてくれる！」

「やれるものならやってみな！」

「デュエル！！」

「先攻は俺だ！ドロー！」

よし、いきなり合体できそうだな

「俺は手札から『鋼鉄戦士 タンク・クラスター』を攻撃表示で召喚！効果でデッキから『鋼鉄戦士マジック・クラスター』と『鋼鉄戦士 トラップ・クラスター』の二体を手札に加える！」

鋼鉄戦士 タンク・クラスタ

星4

ATK：1500

DEF：1600

効果：このカードの召喚、特殊召喚に成功したときデッキから星3以下の『鋼鉄戦士』と名の付くモンスターを2体まで手札に加えることができる

「さらに手札から『出撃命令』を発動！『鋼鉄戦士 サブマリン・クラスタ』を攻撃表示で特殊召喚！」

出撃命令

通常魔法

効果：手札から星4以下の『鋼鉄戦士』と名のつくモンスターを特殊召喚することができる

鋼鉄戦士 サブマリン・クラスタ

星4

ATK：1000

DEF：1000

効果：このモンスターは相手プレイヤーにダイレクトアタックすることができる

「そしてこの二体を除外しあらわれる！『鋼鉄戦士 ハザード・クラスター』！カードを二枚伏せターンエンドだ」

龍一

LP：4000

手札：3枚

モンスター：1

魔法・罫：2

「俺のターン、ドロー！」

さあ、どうくる万丈目！

「手札から『X-ヘッド・キャノン』を召喚！さらに永続魔法『前線基地』を2枚発動する！」

「『前線基地』を2枚だと！？」

「効果で『Y-ドラゴン・ヘッド』と『Z-メタル・キャタピラー』を特殊召喚！そしてこの3体を除外し……」

くるか！

「『XYZ-ドラゴン・キャノン』召喚！……」

くそ、まさか1ターンで召喚するとは……

「『XYZ-ドラゴン・キャノン』の効果発動！手札を1枚捨てることにより相手フィールド上のカード1枚破壊する！ハザード・クラスターを破壊、ハイパー・デストラクション！！」

「くっ！」

「いくぞ！XYZでダイレクトアタック！XYZ-ハイパーキャノン！！」

「リバースカードオープン『攻撃の無力化』！」

「なにっ！？」

あぶねえ伏せといてよかった

「ちっ！ターンエンドだ」

万丈目

LP：4000

手札：0

モンスター：1

魔法・罫：2

「俺のターン、ドロ―！手札から『天よりの宝札』発動！お互いのプレイヤーは手札が6枚になるようドロ―する！」

引いたカードは・・・よし！

「このデュエル、俺の勝ちだ！」

「なんだと!？」

「俺は手札から『合体命令』発動!ジャンク・クラスター、マジック・クラスター、トラップ・クラスターの3体を除外しあらわれろ!『鋼鉄戦士 ジャミング・クラスター』!」

鋼鉄戦士 ジャミング・クラスター

星7

ATK:2100

DEF:2000

効果:鋼鉄戦士 ジャंक・クラスター+鋼鉄戦士 マジック・クラスター+鋼鉄戦士 トラップ・クラスター このモンスターを融合召喚するとき融合は必要としない。自分フィールド上に存在する上記のカードをゲームから除外した場合のみ、融合デッキから特殊召喚することができる。手札からモンスターカードを捨てることにより相手モンスター1体のコントロールをえる。相手が魔法カードを発動したとき手札から魔法カードをすてることによりその魔法を自分が発動したことにすることができる。相手が罠カードを発動したとき手札から罠カードをすてることによりその罠を自分が発動したことにできる。

「手札からモンスターカードを捨て効果発動!相手モンスター1体のコントロールをえる!コントロールジャミング!」

「なにつ!」

「そして二体でダイレクトアタック!」

「ぐわあああ!」

万丈目：LP40000

「よしっ!」

その後、鮫島校長からラーイエローへの昇格を祝されたけど辞退し
といた、オシリスレッドのほづが居心地いいからな

第四話 月一試験！（後書き）

いったんオリカのまとめつくったほうがいいかな？

第五話 紅の龍（前書き）

新しいキャラの登場です

第五話 紅の龍

今俺は授業を終えて寮に帰っているところだ

「あいかわらず遠いなレッド寮は。ん？」

レッド寮の近くにオベリスクブルーの生徒がいる

「おいあんた、こんなところでなにやってんだ？」

「ん？寮に帰る途中だが？」

「へっ？ブルー寮は反対だぞ？」

「……そうなのか？」

「そうなのかってお前……」

しかたなく俺が案内することになった。案内する途中でわかったんだがこいつの名前は紅 仁くれないじんかなりの方向音痴だ。校舎からブルー寮に帰ろうとしてレッド寮にたどりついちまうんだからそうと思えない。

「おっ、ついたぜ」

「すまなかつたな龍一」

「きにするなって仁、それじゃあ「オシリスレッドのドロップアウトがなにやってやがる！」……めんどくさいのに見つかったな」

「ここはオベリスクブルー寮だ！貴様のようなドロップアウトがくる場所ではない！」

「だから今帰ろうとしてるじゃねえか」

「やかましい！」

やかましいのはどっちだよ……

「まで」

「ん？」

「へっ？」

それまで黙っていた仁が急に口を開いた

「龍一は俺のことをここまで案内してくれた、それ以上悪く言うなら許さんぞ」

「なんだお前？オベリスクブルーでありながらこのオシリスレッドを庇うのか！？」

「オベリスクブルーもオシリスレッドも関係ない、ただこれ以上俺の友を侮辱するなら……」

「侮辱するなら？なんだというんだ」

「デュエルでたたきのめすまでだ」

「いいだろう、オシリスレッドを庇うようなやつに俺が負けるはずがない！」

「デュエル！！」

「先攻は俺が貰う！ドロー！『ゴブリン突撃部隊』を攻撃表示で召喚！カードを二枚伏せターンエンドだ！」

モブ男

LP：4000

手札：3

モンスター：1

魔法・罠：2

「俺のターン、ドロー。『黒竜の雛』を攻撃表示で召喚。さらに『黒竜の雛』の効果発動このカードを墓地に送り『真紅眼の黒竜』を攻撃表示で召喚。」

「すげえ、いきなり上級ドラゴンかよ」

「さらに手札から速攻魔法『紅竜の儀』を発動。効果でデッキからスカーレットドラゴンを攻撃表示で召喚」

紅竜の儀

速攻魔法

効果：自分が星7以上のドラゴン族モンスターの特殊召喚に成功したときに発動できる。デッキまたは手札から『スカーレットドラゴン』一体を特殊召喚する

スカーレットドラゴン

星9

ATK：3500

DEF：3000

効果：このカードは通常召喚できない。『紅竜の儀』の効果でのみ特殊召喚できる。このカードの特殊召喚に成功したとき相手フィールド上のカードすべて破壊する。このカードが相手ライフにダメージを与えたとき相手は手札をすべて墓地に送る。このカードは魔法、罠、効果モンスターの効果をつけない

「『スカーレットドラゴン』の効果を発動、このカードの特殊召喚に成功したとき相手フィールド上のカードをすべて破壊する。スカーレットブレス！」

「なに！？うわあああ！」

「『真紅眼の黒竜』でダイレクトアタック、黒炎弾！」

「ひいつ！」

モブ男：LP4000 1600

「とどめだ『スカーレットドラゴン』でダイレクトアタック、プロ
ミネンスノブア！」

「うわあああ！」

モブ男：LP1600 0

「くそつ、覚えてやがれ！」

モブ男らしい台詞をはきすてにげていく

「しかし圧勝だったな」

「あたりまえだ友をバカにされたんだ本気になるさ」

友ね……

「まっ、これからよろしく頼むぜ仁」

「こちらこそよろしくな龍」

俺達は固い握手をかわした

第六話 鋼鉄戦士VSピークロイド

突然だが今から俺は翔とデュエルする。なんでかと言うとこんな感じ、

十代達が廃寮へ そこでタイタンとデュエル 廃寮に行ったのがバ
ルする クロノスが制裁タッグデュエルを提案 翔のデッキを見るた
めにデュエルすることに。

正直、若本ボイスを聞き逃したのは残念だがまあ制裁タッグデュエ
ルをつけなくてすむんだからラッキーかな？

「さあ行くぜ翔」

「う、うん」

「デュエル!!!」

「先攻はもらうぜ、俺のターン、ドロー！俺は手札から『鋼鉄戦士
キッド・クラスター』を攻撃表示で召喚！」

鋼鉄戦士 キッド・クラスター
星2

ATK：500

DEF：500

効果：このカードを召喚した次のターンのスタンバイフェイズにこ
のモンスターを墓地に送ることで『鋼鉄戦士 アンティーク・クラ

スター』を特殊召喚することができる

「カードを一枚伏せターンエンドだ！」

龍一

LP：4000

手札：4枚

モンスター：1

魔法・罠：1

「僕のターン！ドロー！僕はパトロイドを攻撃表示で召喚、パトロイドでキッド・クラスターに攻撃！」

「リバーズカードオープン！くず鉄のかかし！」

「くそっ！」

「翔なんでパトロイドの効果つかわなかった？」

「やめてよ！アニキだからってお説教はなしだよ！僕はこれでターンエンドだよ」

翔

LP：4000

手札：5

モンスター：1

魔法・罾：0

「んじゃ俺のターンドロ！そしてこの瞬間キッド・クラスターはアンティーク・クラスターへと進化する！」

鋼鉄戦士 アンティーク・クラスター
星6

ATK：2100

DEF：2000

効果：このモンスターが攻撃するとき罾カードを使用できない。このモンスターを墓地から除外することで『鋼鉄戦士 レトロ・クラスター』を特殊召喚できる

「アンティーク・クラスターでパトロイドを攻撃！」
「うう……」

翔LP4000 3100

「俺はこれでターンエンドだ」

龍一

LP：4000

手札：5

モンスター：1

魔法・罾：1

「僕のターン、ドロー！僕はサイクロンを発動、伏せカードを破壊！」

「くず鉄のかかしがやられたか！」

「さらに手札から・・・」

「どうした翔？」

「なんでもないよ！僕は融合を発動！スチームジャイロイドを攻撃表示で召喚！スチームジャイロイドでアンティーク・クラスターを攻撃、ハリケーンスマーク！」

「くっ！」

龍一 LP 4000 3900

「僕はこれでターンエンド」

翔

LP：3100

手札：2

モンスター：1

魔法・罫：0

「俺のターンドロー！墓地のアンティーク・クラスターを除外しレトロ・クラスターを攻撃表示で召喚！」

鋼鉄戦士 レトロ・クラスタ
星8

ATK：2800

DEF：2500

効果：このカードがフィールド上に存在するかぎりお互いに畏カードを発動できない

「レトロ・クラスタでスチームジャイロイドを攻撃！ミサイルパ
ーティー！」

「うわあああ！」

翔LP3100 2500

「俺はこれでターンエンドだ」

龍一

LP：3900

手札：6

モンスター：1

魔法・罫：0

「僕は・・・僕はサレンダーするよ」

「えっ!？」

「やっぱり僕には無理なんだアニキ達みたいにデュエルするなんて無理なんだー!」

「おい翔!」

第六話 鋼鉄戦士VSピークロイド(後書き)

続きます

第七話 強大なる敵（前書き）

今回はデュエル無しです。カイザーとのデュエルを期待していた方すみません

第七話 強大なる敵

現在逃げた翔を隼人がおっている。

「翔のやつなんで『あれ』使わなかったのかな？」

十代がつぶやく

「『あれ』ってなんだ？」

「さっきのデュエルで翔が急に黙ったろ？あるときなんでだろと思つて見たら偶然パワー・ボンドを手札にあるのを見たんだ」

「パワー・ボンドか、たしかにそれを使えば俺に勝てたかもな。なんで使わなかったんだらうな」

「教えてくださいか？」

そこに明日香がやってきた。明日香からパワー・ボンドの封印について聞く

「なるほど……でもなんでそんなことを」

「うーん、考えてもしょうがねえや。直接会って話してくる！」

「おつ、おい！行つちまった……しかたねえ俺も行くか」

その後カイザーに会うためいろいろ試したがダメだった。

「ゴメンなあダーリン、力にならなくて」

「すまん」

途中で会った鈴音や仁にも協力してもらったんだがなあ

「いや、いいよ二人ともがんばってくれたし」

「ほんまに！？じゃあ今度デートを「調子にのるな」あいたっ！」

「仲いいなあまえら」

そんなふうにごくぐくぐやっていると十代がすごい勢いで走ってきた。なんでも翔が書き置き残して消えたらしい。その後の流れを簡潔に説明すると、

手分けして翔搜索 翔がいかだで海にでようとしているのを発見
カイザー登場 十代とカイザーがデュエル そのデュエルを見た翔
が大切なことに気づく 制裁タッグデュエルで見事勝利といった感じである

「そついや今回あまり介入してないな」

部屋で一人ぼやく俺

「ヤッホー！神様だよー！」

「……幻覚を見るとは疲れてんのかな？」

「幻覚じゃないよ！本物の神様だよー！」

「……で、なんのようだ仮様？」

「仮様とはなんだよー！本物の神様だって言ってるじゃないか！」

「はあー、用件を早く言ってくれ」

「むう、なんか釈然としないなー。じゃあ用件を言うけど君に捕まえてほしいやつらがいるんだよね」

「捕まえてほしいやつら？」

「うん。そいつらは天界に囚われていた罪人なんだけどね私の部下の不注意で逃がしちゃったんだよね」

「なんでお前の部下が逃がしたやつを俺が捕まえなきゃいけないんだ？お前が捕まえればいいじゃねえか」

「うーんそうしたいんだけどやつらはデュエルリストにしか捕まえられないんだよ。おまけに逃げ込んだ先がこのGXの世界だったんだ。だから君に捕まえてもらったほうがはやいと思ってるね」

「ふーんで、どんなやつらなんだ？」

「それが顔写真とかの資料が一枚もないんだ。わかっているのはやつらの軍団の名前『七ツの大罪』だけなんだ」

「『七ツの大罪』ねえ・・・」

「じゃ、そういつことでよろしくー」

「あっ！行っちゃまった・・・ん？なんだこのデッキ？神様の置き

土産か？」

龍一は新たなデッキを手に入れた

第七話 強大なる敵（後書き）

龍一の敵出現。龍一にはセブンスターズなどのかわりにこいつらと戦ってもらいます

第八話 新デッキと専用デュエルディスク

三沢と万丈目がデュエルしたり、ジュンコが猿にさらわれたり、冬休みに入ったり、サイコシヨッカーと十代が戦ったり、いろいろなことがあったが仮様が言っていたやつらはでてこなかった。ちなみに冬休みには鈴音の家でお世話になったんだが機会があれば話そう。

で、俺は校長室をでてテニスコートにむかっている。・・・別に悪いことをしたから呼び出されたわけじゃねえぞ！テニスの授業中にクロノスにボールぶつけたけど・・・実は朝起きたら仮様がデュエルディスクをおいていったんだ、引き受けてくれたお礼だとさ。で、そいつの使用許可をもらいに校長室にいったんだ。んで、あっさりと了承してくれたからクロノスにボールをぶつけた罰、テニス部に一日体験入部するためにテニスコートにむかっているのさ。

・・・テニスコートについたはいいがなんだこの状況

「美しい・・・君のような人にはこの僕、綾小路ミツルこそふさわしい！」

「だから何度も言ってるやる！うちにはダーリンがおるっちゅうねん！」

「なあ翔なんだこの状況」

「あつ、龍一君。実はね・・・」

翔が言うにはこうだ。

鈴音が、俺がテニス部に一日体験入部したのを知りタオルと飲み物を届けにやってくる。そこに十代に敗れた綾小路が走ってきてぶつかる。綾小路が鈴音に一目惚れする。今のような展開に

というわけらしい。ん？鈴音が俺に気づいたようだ。

「あっダーリン助けてえな！」

「なにっ！君のような男がダーリンだと！」

「そうだけど？」

「即答したっす……」

「君のようなオシリスレッドの男に鈴音くんのような女性は似合わない！僕とデュエルしろ！勝った方が鈴音くんのフィアンセだ！」

「えーめんどくさ」やるんや！「うわ！なんだよ急に」

「ダーリンやるんや！それで勝って、うちのフィアンセになるんや」
「！」

はあ、そういうことか

「だけどさ」返事は？「……はい」

「どうやら覚悟を決めたようだね。では早速って君デュエルディスクを持ってないじゃないか」

「あれそういえば、忘れたんすか？」

「ああすまん今呼ぶから」

「」「呼ぶ？」「」

PDAを取り出し画面に映し出されている鳥のマークをタッチする。

「あつ！レッド寮のほうからなにか飛んでくるっす！」

「なんだありや鳥か？」

「ただの鳥やないみたいやね、ロボットみたいや」

飛んできたロボットの鳥は俺の左腕に装着され変形、デュエルディスクになる。

「すげー！龍一どうしたんだそれ？」

興奮した様子で俺に聞く十代

「ああもらったんだよ」

そうこれこそが仮様からもらったデュエルディスクなのだ。しかし仮様のやつずいぶんすごいものをくれたな。

「ふん！いくらすごいデュエルディスクを持っていようとデュエルが強くなければ意味がないね！さあ準備はいいかな？」

「ああ」

「デュエル!!」

「先攻はもらつよ僕のターン! ドロー! 魔法カード『サービス・エース』を發動するよ! 僕は手札を1枚選び、君はそのカードの種類を当てる。それを君が外せば、1500ポイントのダメージを受けてもらつよ。さあこのカードはなにかな?」

「じゃあ罠で」

「本当にそれでいいのかい?」

「いいです」

「残念モンスターだ1500ポイントのダメージをつけてもらつよ」

「くっ……」

龍一

LP:4000 2500

「さらにカードを2枚伏せターンエンドだ」

綾小路

LP:4000

手札:3枚

モンスター:0

魔法・罠:2

「俺のターン、ドロー！俺は『ナイトメアハンド』を攻撃表示で召喚！」

ナイトメアハンド

星4

ATK1900

DEF0

効果

このモンスターが戦闘以外で墓地に送られた場合、デッキから『ナイトメア』と名の付くモンスターを1体特殊召喚する。

「……鋼鉄戦士じゃない!?」

そう今回使っているのは鋼鉄戦士ではなく仮様からもらった新しいデッキだ。

「続けて魔法発動『ナイトメアドロー』自分フィールド上のナイトメアと名の付くモンスター1体墓地に送りデッキからカードを2枚ドローする。俺は『ナイトメアハンド』を墓地に送りデッキからカードを2枚ドロー！」

「せっかく召喚したモンスターを墓地に送るとは、そこまでして手札補給したかったのかい？」

「いいや、こつこつことさ。墓地に送られた『ナイトメアハンド』」

のモンスター効果発動！このモンスターは戦闘以外で墓地に送られた場合デッキから『ナイトメア』と名の付くモンスターを1体特殊召喚することができる。俺は『ナイトメアガンナー』を攻撃表示で召喚！」

ナイトメアガンナー

星4

ATK2000

DEF0

効果

このカードが戦闘以外で墓地に送られた場合このカードの攻撃力分のダメージを相手にあたえる

「まずは『大嵐』を発動する」

「しまった！」

「そして『ナイトメアガンナー』でダイレクトアタック、シューティング！」

「うわっ！」

綾小路

LP：4000 2000

「まだだ速攻魔法発動！『ナイトメアチェンジ』フィールドのナイトメアと手札のナイトメアを入れ換える！入れ換えるのは『ナイトメアプリンス』！」

ナイトメアプリンス

星6

ATK2400

DEF0

効果

フィールド上に『ナイトメア』と名の付くモンスターが存在する場合、このカードは生け贄なしで召喚できる。このカードが戦闘以外で墓地に送られた場合、相手フィールド上のモンスター全て破壊する

「『ナイトメアプリンス』でダイレクトアタック！ナイトメアスラッシュュ！」

「うわあああ！」

綾小路

LP:20000

「僕がこんなやつに負けるなんて！うわああああん！」

綾小路は号泣しながら走っていった

「やったー！これでうちとダーリンはフィアンセや！」

「いや勝手に決めちゃダメだろ」

俺「これかぶらぶらになるんだろ・・・」

第八話 新デッキと専用デュエルディスク（後書き）

デュエルディスクの説明

鳥形態のAモードとデュエルディスク形態のDモードに変形。カラ

ーは赤

オリカ紹介 鋼鉄戦士編その1 (前書き)

第一話のオリカ紹介です

オリカ紹介 鋼鉄戦士編その1

鋼鉄戦士 ドリル・クラスター

星4 属性：地 種族：機械

ATK1500

DEF1700

効果

このカードの召喚、特殊召喚に成功したときデッキから鋼鉄戦士と名の付く星4以下のモンスターを一枚手札に加えることができる。

鋼鉄戦士 ガード・クラスター

星3 属性：光 種族：機械

ATK800

DEF500

効果

墓地に存在するこのカードを除外することで、このターン自分のモンスターは戦闘によっては破壊されず、プレイヤーは戦闘ダメージをうけない。この効果は相手ターンでも使用できる。

鋼鉄戦士 ジェット・クラスター

星4 属性：風 種族：機械

ATK1600

DEF1800

効果

このカードの召喚、特殊召喚に成功したとき自分フィールド上にあるカード以外の鋼鉄戦士と名の付くモンスターが存在するとき相手フィールド上のカード一枚を手札に戻すことができる。

鋼鉄戦士 マックス・クラスター

星7 属性：風 種族：機械

ATK2700

DEF2500

効果

鋼鉄戦士 ジェット・クラスター+鋼鉄戦士 ドリル・クラスター
このモンスターを融合召喚するとき融合は必要としない。自分フィールド上に存在する上記のカードをゲームから除外した場合のみ融合デッキから特殊召喚することができる。1ターンに1度相手モンスター1体の表示形式を変更することができる。このモンスターが守備表示モンスターを攻撃したとき、そのモンスターの守備力を攻撃力がこえていた場合その差ぶん相手LPにダメージを与える

合体解除

速攻魔法

効果

自分フィールド上に存在する鋼鉄戦士と名の付く融合モンスターを1体選択しそのモンスターを融合デッキに戻す。そのさいそのモンスターの素材モンスターが除外されている場合そのモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する

オリカ紹介 鋼鉄戦士編その1（後書き）

今回のように順番に紹介していきたいと思います

オリカ紹介 鋼鉄戦士編その2 (前書き)

第二話と第三話のオリカ紹介です

オリカ紹介 鋼鉄戦士編その2

鋼鉄戦士 サモン・クラスター

星4 属性：闇 種族：機械

ATK1000

DEF1500

効果

このモンスターを攻撃表示で召喚したとき守備表示に変更する。手札を一枚することでデッキから星3以下の鋼鉄戦士と名の付くモンスターを一体特殊召喚することができる。この効果は1ターンに1度しか使えない

鋼鉄戦士 シールド・クラスター

星3 属性：地 種族：機械

ATK500

DEF2000

効果

なし

鋼鉄神 ラハール

星10 属性：闇 種族：機械

ATK4000

DEF4000

効果

このカードは特殊召喚できない。自分フィールド上に存在するモン

スター3体を生け贄に捧げた場合のみ通常召喚することができる。
このカードの召喚に成功したとき相手フィールド上に存在するカードすべて破壊する。このカードは魔法・罠の効果を受けない

アタックパーツ

装備魔法

効果

このカードは鋼鉄戦士と名の付くモンスターにしか装備できない。
このカードを装備したモンスターは攻撃力が300ポイントアップする。このカードを装備したモンスターが戦闘によって相手モンスターを破壊したとき相手LPに500ポイントのダメージを与える

合体命令

通常魔法

効果

自分フィールド上または手札から融合モンスターカードによって決められたモンスターをゲームから除外し、鋼鉄戦士と名の付いた融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。

鋼鉄戦士 ハザード・クラスター

星7 属性：水 種族：機械

ATK2600

DEF2800

効果

鋼鉄戦士 サブマリン・クラスター+鋼鉄戦士 タンク・クラスター
このモンスターを融合召喚するとき融合は必要としない。自分フィールド

ールド上に存在する上記のカードをゲームから除外した場合のみ融合デッキから特殊召喚することができる。攻撃力を半分にするによりこのモンスターは相手プレイヤーにダイレクトアタックすることができる。このモンスターが攻撃表示で自分フィールド上に存在するとき表示形式を1回だけ変更することができる。エンドフェイズ時このモンスターが守備表示のとき相手に800ポイントのダメージを与える

オリカ紹介 鋼鉄戦士編その2 (後書き)

そろそろ感想がほしい・・・

第九話 怒れる龍（前書き）

今回漫画版GXのカードが登場します

第九話 怒れる龍

明日は遊戯デッキが展示される日。で、十代達と一緒にフライングしてデッキを拝もうと思ったら誰かにデッキが盗まれてた。クロノス先生に頼まれてたがいま捜索中なんだ。

「どうした十代、急に立ち止まって?」

「向こうで誰かがデュエルしてる!」

「こんな時間に?怪しいなくぞ十代に三沢!」

崖についた。

「あれは・・・仁!??」

「翔もいるぞ!」

「もう一人は神楽坂か!」

デュエルディスクを構えた仁と神楽坂、それを心配そうに見る翔がいた。

「翔!いったいどういう状況だ?」

「あつ、龍一君にアニキ!あと三沢君」

「・・・」

だいが空気になってきてるみたいだな三沢

「実はね……」

「ここから翔の回想」

「うわあああああ!!!!」

「うう負けちゃったよ……」

「翔どうした？なにかあったのか？」

「あっ仁君、あいつが……」

「すごい……俺がこんなに強い!!……ワハハハハハ!!」

「あいつが武藤遊戯のデッキを盗んで……それで」

「……お前」

「なんだ？」

「デュエルしろ」

「!!仁君が怒ってる……」

「いいだろう、今の俺にはブルーにも勝てるに決まってる!!」

回想終了

「……ということが会ったんだ」

「なるほど、おっ始めるみたいだな」

「デュエル!!」

「先攻はもらう俺のターンドロー! 『サファイアドラゴン』を攻撃表示で召喚! カードを2枚伏せターンエンド!」

仁

LP: 4000

手札: 3

モンスター: 1

魔法・罠: 2

「俺のターンドロー! 俺は『幻獣王ガゼル』と『バフオメット』を手札融合! いでよ! 『有翼幻獣キマイラ』!」

「キマイラか……」

「サファイアドラゴンに攻撃しろ! 幻獣衝撃粉碎!」

「リバースカードオープン速攻魔法『突進』発動! サファイアドラゴンの攻撃力を700ポイントアップする。」

「なにつ!?!」

神楽坂 LP 4000 3500

「くつ!だがキマイラが破壊されたとき墓地からバフォメットかガゼルを特殊召喚することができる!俺はバフォメットを守備表示で特殊召喚する。ターンエンドだ!」

神楽坂

LP:3500

手札:3

モンスター:1

魔法・罠:0

「俺のターンドロ!俺はサファイアドラゴンを生け贄に捧げ『ガイアドラゴン』を攻撃表示で召喚する」

ガイアドラゴン

星6

ATK2500

DEF2300

効果

手札を1枚捨てることであいてフィールド上に存在するモンスターをすべて守備表示にする

「ガイドドラゴンでバフォメットに攻撃！グランドプレス！」

「くそっ！」

「ターンエンドだ」

仁

LP：4000

手札：3

モンスター：1

魔法・罠：1

「俺のターンドロー！『死者転生』を発動手札を1枚捨て墓地から幻獣王ガゼルを手札に加え召喚する。カードを1枚伏せさらに『光の護封剣』を発動する！」

「なにつ！」

「これでお前は3ターンの間攻撃ができない。ターンエンドだ」

神楽坂

LP：3500

手札：0

モンスター：1

魔法・罠：2

「俺のターンドロー！」

あの伏せカード……

「俺はスピアドラゴンを召喚する」

「ふっ、お前が新たなモンスターを召喚するのを待っていたぜ。俺は罠カード『黒魔族復活の棺』を発動！このカードは相手がモンスターを召喚したとき、そのモンスターと自分のモンスター1体を生け贄に墓地の魔法使い族1体を復活させる。」

「……死者転生のときか」

「その通りだ俺はガゼルとスピアドラゴンを生け贄に『ブラック・マジシャン』を特殊召喚する」

「……俺はカードを1枚伏せターンエンドだ」

仁

LP：4000

手札：2

モンスター：1

魔法・罠：2

「俺のターンドロー！手札から『天よりの宝札』お互いのプレイヤ
ーは手札が6枚になるようにドロウする！『ワタポン』を特殊召喚

さらに『ワタポン』を生け贄に『ブラック・マジシャン・ガール』を召喚」

「ブラマジガールだ！」

翔がなんか反応してるが気にしない

「ブラック・マジシャンでガイドドラゴンを攻撃、黒・魔・導！」

「リバースカードオープン『攻撃の無力化』！」

「くそっターンエンドだ」

神楽坂

LP：3500

手札：4

モンスター：2

魔法・罫：1

「俺のターンドロー！……そろそろデュエルを終わらせるとしよう」

「なにっ！」

「手札から『竜の嗅覚』を発動！相手の場に2体以上のモンスターが存在するとき手札からドラゴンを1体特殊召喚する。あらわれる！『バーニング・ドラゴン』！バーニング・ドラゴンの効果発動！召喚に成功したときすべての魔法・罫を破壊する！バーニングメテオ！」

「なっ!?!」

「さらに速攻魔法『紅竜の儀』を発動! 『スカーレットドラゴン』を特殊召喚! さらに効果発動! スカーレットプレス!」

「ああ! ブラマジガールが!」

無視無視

「これで終わりだ! スカーレットドラゴンでダイレクトアタック! プロミネンスノブア!」

「うわあああ!」

神楽坂LP35000

その後十代やカイザー達が神楽坂を諭しデッキは返却された。

その後仁になりきっている神楽坂がプロミネンスノブアをくらっている姿が目撃された

第九話 怒れる龍（後書き）

次回ちょっととした募集をします

カード募集

作者「というわけでカードを募集します」

龍一「いきなりだなおい」

作者「まずはこちら」

『僕の考えた鋼鉄戦士』

作者「龍一の使う鋼鉄戦士を募集します」

龍一「星、属性、攻守、効果は必ず書いてくれ。それ以外に制限はない。見た目も書いてくれたら嬉しいぞ」

作者「面白かったら採用し龍一に使わせます」

龍一「応募待ってるぜ」

『七ツの大罪の切り札』

作者「龍一の敵『七ツの大罪』の使うカードを募集します」

龍一「募集するのは2枚、『嫉妬・レヴィアタン』と『色欲・アスモデウス』の2体だどちらも星8ということ以外は決まってい

ない。そこで効果などを募集する」

作者「いちばんピッタリだと思ったものを採用します」

龍一「楽しみにしてるぜ」

ガシャーン！

作者「なんだ！？」

????「おい作者！俺の出番はまだか！」

作者「お前は対抗デュエルするとき！それまで待ってる！」

????「待てん！はやく俺のエンターテインメントなデュエルを・
」

作者「わー！それ以上喋るな！」

????「おい！なにをする離せ！（退場）」

作者「ふー危なかった。ナイスだ龍一」

龍一「どうでもいいがなんだあいつ？」

作者「登場は対抗デュエルだからもうちょっとまってくれ。おっともう終わりだな、それじゃ応募待ってます！」

龍一「なんか釈然としねーな」

第十話 恋する乙女とプラネッツ

あらすじ

仮様が新しいデッキをおいていった

早乙女レイがやってきて同室になった。

「まあ俺には関係ないけどな」

レイがやってきたからといって十代様ー！を龍一様ー！にかえるつもりはない。俺はロリコンじゃないしな。ちなみに俺は今風呂にむかっている。全員でたあとに一人でゆったり入るのが気持ちいいんだ。

「さーとと・・・」

脱衣所に入ったら裸のレイがいた

「きゃああああー！」

「うわああああー！」

場所は変わってレッド寮

「本当に誰にも言わない？」

「・・・ねえ」

「なんだ？」

「ボクとデュエルしてくれない？」

「なんだ急に」

ちなみに現在レイの要望により一緒の布団で寝ている

「いいからデュエルしようよ」

「まあ断る理由もないしべつにいいか」

場所は変わってレッド寮外

「やるからには遠慮はしないぜ」

「ボクだって！」

「デュエル!!」

「俺のターン！ドロー！俺は『P・HEROアース』を攻撃表示で召喚！」

P・HEROアース

星4

ATK1800

DEF300

効果

このモンスターの召喚、特殊召喚に成功したときデッキから『P・HERO』となのついたモンスターを1枚手札に加えることができる。自分フィールド上に『プラネッツワールド』が存在している場合以下の効果を得る。

・自分フィールド上に『P・HERオルナ』が存在する場合このモンスターの攻撃力は1000ポイントアップする。

「P・HEROアースのモンスター効果発動！このモンスターの召喚に成功したときデッキからP・HEROを1体手札に加えることができる。俺はP・HERオルナを手札に加える！カードを1枚伏せターンエンドだ！」

龍一

LP：4000

手札：5

モンスター：1

魔法・罫：1

「ボクのターンドロ！ボクは『恋する乙女』を攻撃表示で召喚するよ！カードを2枚伏せターンエンド！」

レイ

LP：4000

手札：3

モンスター：1
魔法・罫：2

「俺のターンドロー！俺は『P・HEROLナ』を攻撃表示で召喚！」

P・HEROLナ

星4

ATK1000

DEF1000

効果

自分フィールド上に『P・HEROLアース』が存在するときこのモンスターの攻撃力は1000ポイントアップする。自分フィールド上に『プラネッツワールド』が存在するとき以下の効果を得る。
・このモンスターは相手プレイヤーにダイレクトアタックすることができる。

「自分フィールド上にアースが存在することでルナの攻撃力は1000ポイントアップする。さらにフィールド魔法『プラネッツワールド』を発動！」

プラネッツワールド

フィールド魔法

効果

P・HEROLと名の付くモンスターの攻撃力は300ポイントアップ

プする。このカードが破壊されたときデッキまたは墓地からプラネツワールドを発動することができる。

「プラネツワールドが存在することによりアースはルナがいるから攻撃力が1000ポイントアップ、ルナはダイレクトアタックができるようになった」

「そんな！」

「アースで恋する乙女に攻撃！アースブレイカー！」

「うわぁー！」

レイLP 4000 1300

「ルナでダイレクトアタック！ルナイリユージョン！」

「うわぁぁぁー！」

レイLP 1300 0

「負けちゃった。・・・ねえ」

「ん？」

「ボクまたデュエルアカデミアにくるからそのときまで待っていてくれる？」

「ああ待っててやるわ」

翌朝

「待っててねー！十代サマー！」

「な、なんで俺なんだよ！」

まっ、原作通りだな

「龍ー！責任はとってよねー！」

「……はあー！？」

「ダーリンどういふことやー！！」

「龍ーお前ロリコンだったのか？」

「どっなってるんだよー！」

第十話 恋する乙女とプラネッツ（後書き）

次回はあの空気男とデュエル!?

カードはまだ募集しています。同じ人が複数投稿するのもありな
でどんどん投稿してください!.....コラボやってみようかな

第一一話 対抗デュエル。キングは一人この俺だ！（前書き）

三沢とデュエルのはずでしたが都合によりカットです

第一一話 対抗デュエル。キングは一人この俺だ！

ノース校との対抗デュエルにカイザーが十代を推薦それがいやなく
ロノスが三沢を推薦、そして校長がなんと俺を推薦した。相手の代
表は二人ということでは校長に推薦された俺は自動的に万丈目ではな
いほうの代表とデュエルすることになった。ここらへん原作と違うな

対抗デュエル当日

「しかし相手はどんなやつなんだ？」

控室で一人呟く俺

「生で全国放送とはあの兄弟も粋なことをする」

めずらしくカードからでてきているラハール

「おっともう時間が、じゃあ行くか」

「ああ俺様の姿のお披露目だ」

デュエル場

『信じられないノーネ。私の姿が、今全国に流れているなノーテ。
そ、それじゃ、これヨーリ、デュエルアカデミア本校！ノース校！
対抗デュエルを始めるノーネ！』

ワアアアア!!

『まずは本校から鋼野 龍一!』

「いつちよやりますか!」

『続いてノース校から竹虎 アキト!』

しーん……

『あれ?アキト?竹虎 アキトはどうしたノーネ?』

キング!キング!キング!キング!キング!キング!

『ななな、なんなノーネ!?』

プシュー……

「なっ!?!スモーク!?!」

バツ!

「キングは一人この俺だー!?!」

ワアアアア!!

「な、なんだこいつ!?!」

ジャック・アトラスにそっくりなやつがスモークの中から飛び出て
きやがった！

「さあ始めるとしようエンターテインメントなデュエルをな！」

「なんか調子くるう・・・」

「デュエル！！」

「先攻は俺だ！ドロー！」ツイン・ブレイカー』を攻撃表示で召喚
！カードを2枚伏せターンエンドだ！」

アキト

LP：4000

手札：3

モンスター：1

魔法・罫：2

「見た目もジャックなら使うカードもジャックか、俺のターンドロ
ー！『鋼鉄戦士 ドリル・クラスター』を守備表示で召喚！効果で
ジェット・クラスターを手札に加える。」

相手の場には『ツイン・ブレイカー』に伏せカードが2枚・・・

「カードを1枚伏せターンエンド！」

龍一

LP：4000

手札：5

モンスター：1

魔法・罫：1

「守りに徹するか！俺のターン！ドロー！」『マッド・デーモン』を攻撃表示で召喚しターンエンドだ！」

アキト

LP：4000

手札：3

モンスター：2

魔法・罫：2

「俺のターン！ドロー！」『鋼鉄戦士 ジェット・クラスター』攻撃表示で召喚！効果で『ツイン・ブレイカー』を手札に戻す！」

「攻撃力の低い『ツイン・ブレイカー』を手札に戻したか」

「そして2体を除外しあらわれろ！」『鋼鉄戦士 マックス・クラスター』！さらに効果で『マッド・デーモン』を守備表示に！」

「わざわざ『マッド・デーモン』を守備表示にしたということは」

「『マッド・デーモン』に攻撃！インパクト・ナックル！」

「くっ！やはり貫通もちか」

アキト：LP4000 1300

「ターンエンドだ！」

龍一

LP：4000

手札：5

モンスター：1

魔法・罫：1

「俺のターン！ドロー！ふむ貴様にいいものを見せてやろう」

「なに？」

「まずは『バイス・ドラゴン』を特殊召喚！更にチューナーモンスター『ダーク・リゾネーター』を召喚！」

「チューナーモンスターだって！？まさかシンクロ召喚か」

「ほうシンクロ召喚を知っているということは、貴様俺と同じか」

「なに！」

「ふん！だが関係ない勝つのは俺だ！星5『バイス・ドラゴン』に星3『ダーク・リゾネーター』をチューニング！王者の鼓動、今ここに列を成す！天地鳴動の力を見るがいい！シンクロ召喚！我が魂『レッド・デーモンズ・ドラゴン』！」

「でやがった・・・」

「見よ！まがまがしくも美しいレッド・デーモンズ・ドラゴンを！」

「くそっ」

「レッド・デーモンズでマックス・クラスターを攻撃！アブソリュートパワーフォース！！」

龍一：LP4000 3700

「くっ！リバーカードオープン『スクラップ利用術』破壊された鋼鉄戦士の星によって『スクラップトークン攻/守0』を特殊召喚するマックス・クラスターの星は7よって3体のスクラップトークンを特殊召喚する！」

「ふん。ターンエンドだ」

「俺のターン！ドロー！いくぞ！3体のスクラップトークンを生け贄に捧げ、あらわれる！『鋼鉄神ラハール』！」

「ふん！やっと俺様の出番か」

「いけラハール！大・破・壊」

「なに俺のカードが！」

「これでとどめだ！ラハールでダイレクトアタック鋼・鉄・斬！」

「グワアアア！」

アキト：LP13000

このあと十代も勝利し対抗デュエルは終わった。その後万丈目だけでなく、アキトも本校にくることになった。理由は俺に勝つためらしい。俺に勝ってキングの称号を取り戻すらしい。いつそんなの賭けてた？

第一一話 対抗デュエル。キングは一人この俺だ！（後書き）

カードはまだ募集してます

キャラ設定その2

紅仁くれないじん

人間

性別：男

性格：クールで物静かだが、友達を侮辱するやつは許さない熱い面ももつ

身長：176cm

体重：54kg

所属：オベリスクブルー

デッキ：ドラゴン族中心

見た目：髪は短め、少しつり目、クール

補足：かなりの方向音痴で一人だと絶対に目的地に辿り着けない。
なのでよく龍一にお世話になっている

竹虎 アキト（たけとらあきと）

人間

性別：男

性格：キング

身長：190cm

体重：63kg

所属：オベリスクブルー

デッキ：ジャック風味

見た目：まんまジャック

補足：龍一と同じ転生者。転生するさいに顔などをジャックそっくりに変えてもらっている

第二話 そんな日常 こんな日常（前書き）

日常の1コマ

第一二話 そんな日常 こんな日常

「龍一！今日こそは貴様に勝つ！」

「またかアキト、毎日毎日よく飽きないな」

デュエル部分カット

「なぜだ！なぜ勝てん！」

「さあなんでだろうな？じゃあ俺はいくわ」

いつものようにアキトにデュエルを挑まれ、そして勝ち

「ダーリン！うちの手料理食べてえなあ！」

「そんな物体X食べられるかー！」

いつものように鈴音から追い回され

「早くしろよ龍一！」

「置いていくぞ？」

「待ってくれよ！」

いつものように仁や十代と賑やかに過ごす

こんな日がずっと続けばいいと思っていた。

けど……

「てめえなにもんだ！」

「俺は七ツの大罪の一人、嫉妬のアクス」

そんな日々は唐突に終わる。

第二話 そんな日常 こんな日常（後書き）

次回、ついに七ツの大罪が現れる！

第一三話 現れた七ツの大罪。 - 嫉妬・レヴィアタンの恐怖

あらすじ

三幻魔のカードが狙われていることがわかった

現在カミューラに十代が挑み勝ったところだ。

「おっ、幻魔の扉だ」

これでカミューラも終わったな。・・・ん？

「幻魔の扉から誰かでてくる？」

「え？ほんとですか？」

幻魔の扉からそいつは姿をあらわした。

「な、何者だお前！」

「・・・妬ましい」

「は？なにをいつ！？」

そいつはいきなりカミューラを蹴り飛ばした

「なっ！」

「妬ましい、妬ましい、お前の美しさが妬ましい。妬ましい、妬ましい、お前のデュエルの強さが妬ましい。妬ましい、妬ましい、この世のすべてが妬ましい」

「てめえなにもんだ！」

「俺は七ツの大罪の一人、嫉妬のアクス」

「な、七ツの大罪だと!？」

こいつが仮様の言っていたやつか！

「お前が鋼野 龍一か」

「そ、そうだ」

「まったく妬ましい、うちのリーダーに気に入られるなんて。まあいいお前をデュエルで倒せば俺の株もあがる」

「やれるもんならやってみやがれ！」

俺はデュエルディスクをかまえる

「デュエル!!」

「俺の先攻ドロー!」『鋼鉄戦士 ドリル・クラスター』を攻撃表示で召喚!効果でジェット・クラスターを手札に加える!カードを2枚伏せターンエンドだ!」

龍一

LP：4000

手札：4

モンスター：1

魔法・罫：2

「俺のターンドロ、俺は『罪人ダオス』を守備表示で召喚」

罪人ダオス

星3

ATK500

DEF500

効果

このモンスターは他のモンスターの効果の対象にならない。このモンスターが破壊されたときデッキから星8のモンスターを1体手札にくわえる

「カードを2枚伏せターンエンドだ」

アクス

LP：4000

手札：3
モンスター：1
魔法・罠：2

「俺のターンドロ！『鋼鉄戦士 ジェット・クラスター』召喚！
効果で伏せカードの1枚を手札に戻す！」

「あれ？ダオスを戻さないんすかね？」

「どうやらあのダオスというモンスターは効果の対象にならないみたいね」

「さらにドリル・クラスターとジェット・クラスターの2体を除外しあらわれる！『鋼鉄戦士 マックス・クラスター』！」

「妬ましい……」

「マックス・クラスターでダオスを攻撃！インパクト・ナックル！」

「妬ましい……」

アクスLP：4000 1800

「この瞬間ダオスのモンスター効果を発動、さらにそれにチェインし罠カード、『罪の連鎖』発動」

罪の連鎖

罨

効果

自分フィールド上のモンスターが破壊されたとき発動することができる。デッキから『罪人』と名の付く星4以下のモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する

「俺は『罪人レグルス』を守備表示で特殊召喚する」

罪人レグルス

星4

ATK1000

DEF1000

効果

星8のモンスターの生け贄素材にするとき、このモンスターは2体分の生け贄素材とする

「そしてダオスの効果で『嫉妬・レヴィアタン』を手札にくわえる」

「俺はターンエンドだ」

「ああ！龍一君のモンスターが！」

「え？マックス・クラスターが石に？」

「いったいなにがおこってんだ！？」

「レヴィアタンでマックス・クラスターに攻撃！嫉妬の津波！」

「ぐわあ！」

龍一LP：4000 3000

「くそっ！なんなんだ、このモンスターは！」

第一三話 現れた七ツの大罪。 - 嫉妬・レヴィアタンの恐怖（後書き）

次回に続く！

あ、あとコラボ相手を募集します。こんな駄作者でもコラボしてもいいというかたは感想をお願いします

第一四話 龍一の賭け、鋼鉄神の試練（前書き）

遅くなつてすみません

第一四話 龍一の賭け、鋼鉄神の試練

「くっ、なんなんだこいつは！」

「これこそが俺の力。嫉妬・レヴィアタンだ」

「なんてまがまがしいモンスターなんだ！」

「龍一！」

レヴィアタンのまがまがしい姿に十代達がさわきだす

「くっ、大丈夫だ十代。リバーカードオープン！『緊急事態発生』！」

「緊急事態発生？なんだせれは」

「こいつは自分フィールド上の鋼鉄戦士と名のついたモンスターが破壊されたときに発動することができる！デッキから星4以下の鋼鉄戦士1体を特殊召喚する、俺は『鋼鉄戦士 シールド・クラスタ』を特殊召喚する！」

「なるほど相手の効果がよくわかっていない今、守備力の高いモンスターで時間稼ぎというわけか」

三沢が龍一の考えを読む

「でもさっきマックス・クラスタを破壊しちゃったくらいだし守備力2000じゃたりないんじゃないか」

「ふん、ターンエンドだ」

アクス

LP：1800

手札：4

モンスター：1

魔法・罫：1

「俺のターンドロー！（くらったダメージは1000、やつはマックス・クラスターの攻撃力を1000越えていることになる。だが今の俺の手札にやつを止める術はない）くそつ、ターンエンドだ」

龍一

LP：3000

手札：5

モンスター：1

魔法・罫：1

「俺のターンドロー」

「（くそっ、なんとかしないと！）」

「ターンエンドだ」

「え？（なにもしてこない？）」

アクス

LP：1800

手札：5

モンスター：1

魔法・罫：1

「どうした、お前のターンだぞ」

「あ、ああ。ドロー！（もしかしたらあのモンスターは……）」

『鋼鉄戦士 サブマリン・クラスター』を攻撃表示で召喚！」

「ふん……」

「あれ？シールド・クラスターの石化がとけてサブマリン・クラスターが石になっただけだっす！」

「（一体だけしか石にできないのか？いや、だとしてもサブマリン・クラスターがでた瞬間に石化するとは対象を選べないのか？あと少し、あと少しであいつの効果が変わるってのに！）くそっ！ターン

「エンドだ！」

龍一

LP：3000

手札：5

モンスター：2

魔法・罫：1

「俺のターンドロ。レヴィアタンでサブマリン・クラスターを攻撃、嫉妬の津波！」

「ぐうう！」

龍一 LP 3000 2000

「ターンエンドだ」

アクス

LP：1800

手札：6

モンスター：1

「くくくくく」

「なんだ？恐怖で頭がおかしくなったか？」

「いや、やっとわかったのさ。そいつの能力がな！」

「なに？」

「そいつの能力は簡単に言えば俺の場の一番攻撃力の高いモンスターの攻撃を封じ、その攻撃力のぶんだけ自身の攻撃力を上げるまさに嫉妬の力」

「確かに俺のレヴィアタンの能力はそんなところだ。だがわかったところでどうにかなるわけ「なるんだよ」なに？」

「どうにかなるんだなこれが！ドロー！」

ひいたカードを見て龍一は確かに笑った

「手札から速攻魔法『鋼鉄神の試練』発動！」

「『鋼鉄神の試練』だと？なんだそれは」

「こいつは俺の場のすべてのカードと手札を墓地に送ることで発動される。俺は今からデッキからカードを一枚ドローするそれが鋼鉄

神なら場に特殊召喚しそれ以外なら墓地に送る」

「なるほど！ラハールならこの状況を覆せる！」

「だけど……」

「そつだそんなぶの悪い賭けにでるとは勝ちを諦めたか？」

「へっ、やってみなきゃわかんねえだろうが！ドロー！」

「……」

「……」

「……」

「……『鋼鉄神 ラハール』特殊召喚！」

「おお！」

「やったぜ龍一！」

「馬鹿な……」

「やれラハール大破壊だ！」

『ふん！』

「馬鹿な、レヴィアタンが俺の力が……」

「これで終わりだ！鋼！」

『鉄！』

「『斬！』」

「ギヤアアア！イヤダ！牢獄ニモドリタクナイ！ギヤアアアアアアアア！」

アクスLP18000

「勝てた……『ゴゴゴゴゴゴ』なんだ！？」

「やばい崩れるぞ！」

「くそっ、ん？カード？」龍一速く！「ああ！」

レッド寮 龍一の部屋

「しかしどうするかなこれ」

龍一はさっき拾ったカードを見ていた。それは……

「『嫉妬・レヴィアタン』……」

そうアクスの使っていた力、レヴィアタンである

「……うとうとにかぎって仮様のやつはこねーし、どうしたものかな」

夜はふけてゆく……

第一四話 龍一の賭け、鋼鉄神の試練（後書き）

次回は学園祭かな？

第一五話 学園祭パニック！新パートナーは氷のお姫様！？（前書き）

作者のアイドル登場！

第一五話 学園祭パニック！新パートナーは氷のお姫様！？

仮様からまた新しいデッキが送られてきた。『こいつ』と一緒に・

・

「ご主人、お腹がすいたのだわ」

「あのおプリン、さっきさんざん食わせてやったろうが」

「あれじゃあ全然足りないのだわ」

こいつはプリザード・プリンセスのプリン、俺の新しい精霊だ。こいつ実体化ができるらしく、よく実体化して俺の食料を食い荒らしやがる。くそう、レッド寮のメシはただでさえ少ないってのに・

それはそうと現在デュエルアカデミアは学園祭にむけて準備中である。かくいう俺もレッド寮で行われるコスプレデュエルにむけて準備中だ。

「ここをこうして・・・」

俺は今、転生するまえに得意だった？ 工作をしている。なぜ疑問形かというと俺は原作知識以外、転生するまえの記憶がまったくない。家族はどんなやつだったか？ 友達はいたか？ 彼女はいたか？ 学校はどんなところだったか？ 思い出そうとすると強い頭痛におそわれるため最近は思い出さないようにしている。

ちなみに作っているのはマックス・クラストーである。本当はラハールにしたかったがラハールに猛反対されしかたなく断念した。

「どうしてトメさんがブラマジガールなんすかー！」

なんか魂の叫びが聞こえたきがしたが無視することにした
そんなこんなで学園祭当日

「ダーリン、これどうや？」

「ん？可愛いと思うぞ」

「ありがとダーリン。ダーリンもカッコイイなあ」

なぜかオベリスクブルーの鈴音もハーピー・クイーンのかっこで参加している。なんでも翔に土下座で頼まれたらしい

「ていうか龍一君クオリティー高すぎっす」

「それをいうならあの二人も結構すごいと思うがな」

龍一の視線の先にはレッド・デーモンズ・ドラゴンのコスプレをしたアキトとスカーレット・ドラゴンのコスプレをした仁がいた

「ドラゴンのコスプレってちょっと無理があるきがするっす」

「ふん！我が魂のコスプレに無理などないわ！」

「俺はアキトに無理矢理……」

「なんだ途中までノリノリだったではないか」

「あ、あれは！その、なんだ……」

「なんだかんだでいいコンビだなあいつら」

「龍一君、そろそろ始めるっすよ」

「おおそうか。さて、このマックス・クラスターに挑むのは誰かな？」

「はいはい！私がデュエルしたいです！」

「「ブラック・マジシャン・ガール！？」」

「いいですかー？」

「もちろんっす！じゃんじゃんデュエルしてほしいっす！」

「それじゃあ、お手柔らかにお願いしまーす」

「悪いが手加減は嫌いなんだがね」

「「デュエル！！」」

「俺の先行、ドロー！よし俺は『クルセイダー・オブ・エンディミオン』を攻撃表示で召喚！さらに永續魔法『魔法族の結界』を発動！」

クルセイダー・オブ・エンディミオン

ATK：1900

「カードを一枚伏せターンエンドだ！」

龍一

LP：4000

手札：3

モンスター：1

魔法・罫：2

「私のターン、ドロー！私は『マジシャンズ・ヴァルキリア』を守備表示で召喚しまーす」

マジシャンズ・ヴァルキリア

DEF：1800

「カードを1枚伏せてターンエンドです」

BMG

LP：4000

手札：4

モンスター：1

魔法・罫：1

「がんばれ！ブラマジガール！」
「翔やギャラリーがB M Gを応援する」

「みんなありがとう！」
それに手を振ってこたえるB M G

「なんかやりづらいな・・・俺のターン、ドロ！俺は『クルセイダー・オブ・エンディミオン』をデュアルする！これによりクルセイダーは自分の場の魔力カウンターを置くことができるカードに魔力カウンターを置くことができる！俺は『魔法族の結界』に魔力カウンターを置く！さらに魔力カウンターを置いたことによりクルセイダーの攻撃力は600ポイントアップする！」

結界：0 1

ATK：1900 2500

「クルセイダーでヴァルキリアを攻撃！クルセイダーマジック！」

「リバーズカードオープン！『和睦の使者』を発動しまーす」

「くそつ、ターンエンドだ」

龍一

LP：4000

手札：4

モンスター：1
魔法・罫：2

「私のターン、ドローです。私は『マジシャンズ・ヴァルキリア』を生け贄に私自身を召喚！」

B M G

A T K：2000

「私で『クルセイダー・オブ・エンディミオン』を攻撃！黒・魔・導・爆・烈・波！」

「リバースカードオープン！『魔法の筒』マジック・シリンダー！」

「え？きやあ！」

B M G：L P 4000 2000

「なにやってんだー！」

B M Gをイジメんなー！」

ギャラリーからブーイングがおこる

「うるせえなあ、これも戦術だつてのに」

「うう、なら私はカードを2枚伏せターンエンドです」

B M G

L P : 2 0 0 0

手札 : 3

モンスター : 1

魔法・罫 : 2

「俺のターンドロー！俺はクルセイダーの効果を使い魔力カウンターを置く！」

結界 : 1 2

「『霊滅術師カイクウ』を召喚！さらに『魔法族の結界』の効果を発動！自分フィールド上の魔法使い族モンスターとこのカードを墓地に送ることによりこのカードにのっている魔力カウンターの数だけドロウすることができる！カイクウとこのカードを墓地に送り2枚ドロウ！さらに『デュアルサモン二重召喚』を発動！クルセイダーを生け贄にささげ『ブリザード・プリンセス』召喚！」

ブリザード・プリンセス

A T K 2 8 0 0

「さあ、やってやるのだわ」

「プリンセスの召喚に成功したターン相手は魔法・畏を発動することはできない！」

「そんな！」

「さらに『一族の結束』に『強者の苦痛』発動！」

プリンセス

ATK 2800 3600

ガール

ATK 2000 1400

「え？てことは……」

「これで終わりだ！アイスエイジハンマー！」

「きゃあああ！」

BMG : LP 2000 0

「そんなあ、ブラマジガールが……」

「ん〜負けちゃった、でも楽しかった！」

「ああ俺も楽しかったぜ」

「こうして学園祭はすぎてゆくのであった

「ご主人お腹がすいたのだわ」

「まだ食うの!?!」

第一五話 学園祭パニック！新パートナーは氷のお姫様！？（後書き）

ブリザード・プリンセスは俺の嫁！

第一六話 色欲との対決、友情の力！鋼鉄雷鳴戦士 マックス・スパーク・クニ

今回冬將軍さんの考えてくださったオリ力をつかわせていただきま
した。冬將軍さんありがとうございました

「ぐわああああ！」

影丸に十代が勝った

「（だけどなんなんだ？この感じ、なにかよくないことがおきるきがする……）」

影丸が老人の姿に戻り倒れかけたとき後ろから誰かが影丸の肩をつかんだ

「だめじゃない影丸ちゃん。せつかく若返る方法を教えてあげのに負けちゃったら全部台なしじゃない」

「誰だよあんた」

「初めましてね十代ちゃんに龍一ちゃん。私は七ツの大罪の一人、色欲のアリスよ。よろしくね」

そういつてアリスはウインクする

「七ツの大罪だと！？だったら！」

「んもー焦らないの龍一ちゃん。十代ちゃんと一緒に相手してあげるから」

「俺も？」

急に指名された十代は少し驚いた様子を見せる

「なぜ十代を巻き込む！？」

「んふ、それは十代ちゃんがほしいからよ」

龍一の怒声にたいしアリスは妖しい笑みをつかべながらこたえる

「十代がほしだいって？なぜ！」

「んふ、それをあなたに教える理由はないわ。それより始めましょう？三人で最高のひと時をね」

「十代、無理しなくても大丈夫だぞ？俺にまかせてくれれば」

「大丈夫だって龍一！二人であいつを倒そうぜ！」

「十代……わかった、やろう！」

「お話しは終わったかしら？それじゃあ始めましょ」

「……デュエル!!!」

「先行は私がもらうわね。私のターンドロー。私は『罪人ビビアン』を攻撃表示で召喚するわ」

罪人ビビアン

星4

ATK1700

DEF300

効果

自分フィールド上の『罪人』と名のついたモンスターが魔法、罫、

効果モンスターの効果の対象になったとき対象をこのモンスターにうつすことができる

「カードを一枚伏せターンエンドよ」

アリス

LP：4000

手札：4

モンスター：1

魔法・罫：1

「次は俺だ！俺のターンドロ！モンスターをセット、カードを一枚伏せてターンエンドだ！」

龍一

LP：4000

手札：4

モンスター：1

魔法・罫：1

「よし次は俺だな！ドロ！『E・HEROクレイマン』を守備表示で召喚するぜ！」

E・HEROクレイマン DEF2000

「カードを二枚伏せてターンエンドだ！」

十代

LP：4000

手札：3

モンスター：1

魔法・罠：2

「アニキも龍一君も慎重すね」

「相手のデッキがどういうものかわからないんだ正しい判断だろう」

「ダーリン……」

「私のターンドロ、クス」

「！（ドロしたカードを見て笑った！？）」

「んふふ、私は『罪人レグルス』を守備表示で召喚するわ」罪人レ
グルス DEF1000

「そしてビビアンで龍一ちゃんのセットモンスターを攻撃するわ」

「させるか！ 畏発動！ 『和睦の使者』！」

「あら残念」

「そしてセットモンスターの『特殊整備士』の効果を発動！ このモンスターがリバースしたとき墓地、又はデッキから鋼鉄戦士を一体手札に加えることができる、俺は『鋼鉄戦士 ランチャー・アーミー』を手札にくわえる！」

特殊整備士

星2

ATK200

DEF100

効果

リバース・自分の墓地、又はデッキから鋼鉄戦士と名のつくモンスターを一枚手札に加える

「あら厄介ね私はカードを一枚伏せターンエンドよ」

アリス

LP：4000

手札：3

モンスター：2

魔法・罠：2

「俺のターンドロ！俺は『特殊整備士』を生け贄にささげ『鋼鉄戦士 ランチャー・アーミー』を攻撃表示で召喚！」

鋼鉄戦士 ランチャー・アーミー

星6

ATK2400

DEF1000

効果

このカードの召喚に成功したとき相手フィールド上のカードを一枚破壊する

「ランチャー・アーミーのモンスター効果発動！このカードの召喚に成功したとき相手フィールド上のカードを一枚破壊する！『罪人レグルス』を破壊だ！」

「いい判断ね、だけどそうはいかないわよ。ビビアンのモンスター効果発動！フィールド上の他の罪人が効果の対象になったとき対象をビビアンにかえることができる」

ランチャー・アーミーの発射したミサイルがレグルスにむかうがビビアンがレグルスをかばってしまう

「くそっ！だったらランチャー・アーミーでレグルスを攻撃だ！」

「それも通さないわ、畏発動『攻撃の無力化』」

「くっ、レグルスを破壊できなかったか。カードを一枚伏せターンエンドだ」

龍一

LP：4000

手札：3

モンスター：1

魔法・罫：2

「俺のターンドロロー！よし、手札から『融合』を発動！フェザーマ
ンとバーストレディを融合し現れる！『E・HEROフレイム・ウ
イングマン』！」

E・HEROフレイム・ウイングマン ATK2100

「フレイム・ウイングマンでレグルスを攻撃！フレイムシュート！」

「きゃっ！ふふそうこなくっちゃ」

「ただただフレイム・ウイングマンの効果で罪人レグルスの攻撃力
分のダメージを与えるぜ！」

「くっ」

アリス：LP4000 3000

「よし俺はこれでターンエンドだ」

十代

LP：4000

手札：1

モンスター：2

魔法・罠：2

「ふふふ、私のターンドロ、『死者蘇生』を発動。『罪人レグルス』を蘇らせるわ」

「なに！」

「そしてレグルスを生け贄にささげ、現れなさい！」 - 色欲 - アスモデウス」！」

- 色欲 - アスモデウス ATK2800

「やっぱり嫉妬みたいなカードを持ってやがったか！」

「うふふさらに手札から星9のモンスターを捨てて『ダブルアタック』を発動。これによりアスモデウスは二回攻撃ができるようになったわ。アスモデウスでフレイム・ウイングマンを攻撃、色欲の舞

「！」

「うわあああ！」

十代：LP4000 1200

「なんで十代のライフがあんなに!？」

「うふふ、アスモデウスは戦士族、獣戦士族、魔法使い族と戦闘するときそのモンスターの攻守を0にするの」

「くつ、『ヒーローシグナル』を発動、スパークマンを守備表示で召喚」

E・HEROスパークマン DEF1400

「くそっ！（だがランチャー・アーミーは機械族、少しはたえられる」とても思ってるの?」「！」

「ふふ、残念でした『DNA改造手術』を発動、選択するのはもちろん戦士族！」

「そんな！」

「アスモデウスでランチャー・アーミーを攻撃！」

「ぐづうう」

龍一：LP4000 1200

「あなた達に残された時間もあとわずかね、ターンエンド」

アリス

LP：3000

手札：0

モンスター：1

魔法・罫：1

「くっ！俺はあきらめない！俺のターンドロー！『強欲な壺』で二枚ドロー！よし『レプリカ作成』を発動！融合デッキから機械族の融合モンスターを墓地に送りそのモンスターのレプリカを作成する！俺はマックス・クラスターを墓地に送りマックス・クラスターのレプリカを作成する！」

マックス・クラスター（レプリカ） ATK0

「そんなのだしても時間稼ぎにもならないわよ？」

「わかってるさ！十代スパークマンを使わせてもらっぞー！」

「お、おう！」

「手札から『融合』を発動！スパークマンとマックス・クラスタを融合し現れる！」鋼鉄雷鳴戦士 マックス・スパーク・クラスタ
「！！！」

鋼鉄雷鳴戦士 マックス・スパーク・クラスタ ATK3000

「ふふ、そんなのだしても無駄よ。こつちに『DNA改造手術』があるかぎりすべてのモンスターは戦士族なんですもの」

「そんなの百も承知だ！鋼鉄雷鳴戦士のモンスター効果発動！手札を一枚捨てることにより相手フィールドのモンスター一体の効果を無効にし攻守を0にする！マヒボルト！」

「なんですって！」

「これでアスモデウスは怖くない！決めるぜ十代！」

「ああ決めてやろうぜ！」

「鋼鉄雷鳴戦士でアスモデウスを攻撃！プラズマナックル！」

「いーいやあああ！」

アリス：LP3000 0

「やったー！アニキ達が買ったっす！」

「そうだ影丸は！？」

その後は原作通り進んだ

オシリスレッド寮の龍一の部屋、そこに龍一の他に鈴音、仁、アキトの姿があった。

「どうしたんだおまえら？」

「単刀直入に聞くで、ダーリンはいつたい何者なん？」

「え？いつたいなんのことだ？」

「とぼけないでほしい」

「そやうちらは知りたいんやダーリンのことを」

「……………わかった、話そうアキトもいいな？」

「ああ」

それから俺達は自分達が転生者であることを話した

「そうやったんか……………でもダーリンはダーリンにかわりあらん！」

「鈴音……………ありがとう」

「ダーリン……………」

「さて、邪魔者は去るか」

「そうするとしようか」

仁とアキトは部屋をでていく。龍一と鈴音の二人は甘い夜を過ごしたとさ

第一部 完

第一六話 色欲との対決、友情の力！鋼鉄雷鳴戦士 マックス・スパーク・クニ

次にちょっとした募集をします

スーパーロボットをカードにしよう！

「なんだこのタイトル」

そのままの意味だよ龍一。今回みなさんに新たなオリカを考えてほしいんです。それは『スーパーロボット』！

「スーパーロボットってというとマジンガーZとかか？」

そうそう例をあげればこんな感じ

マジンガーZ

星7 機械族 炎属性

ATK2600

DEF2500

効果・シンクロ

『ホバーパイルダー』+チューナー以外のモンスター一体以上1ターンに一度手札を二枚まで捨てることができる。その後捨てた枚数分だけ相手フィールド上にセットされたカードを破壊する

「ん？これシンクロモンスターじゃねえか」

だってお前、第二部から5D・S行きだもん

「はあ!？」

というわけでみなさんの知っているスーパーロボット達をオリカに

してどんどん投稿してください。もちろん一人何回でもOKです。
というかまじで投稿してくださいネタが思い付かないんです

「えーと、シンクロモンスターの場合は召喚するまえの前口上も考
えてくれ。ちなみに作者の考えたマジンガーZの前口上はこちら」

『立ち上がれ鉄の城！その鉄拳で悪の野望を打ち砕け！シンクロ召
喚！』

「まあなんつーかダサイな。まあこんな感じでじゃんじゃん投稿し
てくれ」

投稿待ってまーす

スーパーロボットをカードにしよう！(後書き)

まじでお願いします

5 D S 編プロローグ（前書き）

ギアルさん冬將軍さんもうしわけありません
コラボのほうは時間がかかると思いますが

5DS編プロローグ

「ヤッホー！」

「な、なんやこのお子様は？」

龍一にアキトに仁、鈴音が龍一の部屋にいと突然仮様がやってきた

「なんか用か仮様」

「仮様じゃなくて神様ー！」

「へー、じゃあこの子がダーリンを転生させた神様なんか」

「まあそんなところだ。で、なんの用なんだ？」

「むむ納得いかないけど、しかたないね。実はね七ツの大罪の内の二人がどこにいるのかがわかったんだよ」

「七ツの大罪が？」

「そっ！で、君にそこに行ってほしいんだよ」

「どこだ」

「5DSの世界だよ」

「はあ！？どこじゃないのかよ！？」

「うん。デュエルアカデミアのほうは大丈夫だよ。なんとかかしく

から
「

「……拒否権は？」

「ないに決まってるじゃん」

「なあなあ仮様、それってうちも行けへんの？」

「君まで仮様扱い！？」

「ああすんまへん神様」

「ん〜じゃあ特別につれて行ってあげるよ」

「やったー！ダーリンと一緒にや！」

「おい！神！俺もつれていけ！」

「俺も頼めないか？」

「ん〜しょうがないな。特別だよ？」

「お前らなあ……」

「じゃあ早速いつてらっしやい！」

仮様の言葉とともに全員の足元に穴があく

「」「」「」「わあああ！」「」「」

「いたっ！んぐこごどこや？」

「どごちらついたよっだな」

「ついにジャックに会えるのか！」

「あれ？ダーリンは？」

「え？」

「ん？」

龍一が起きた場所は機械がたくさんある部屋だった

「あ！起きたね」

「仮様！これはどういうことだ！？」

「まだ仮様と呼ぶか！こほん。今から君を改造します！」

「へ？ギヤアアアアアアア！」

ドサッ！

「あーダーリン！」

「龍一？どうしたんだその腕？」

「………改造された」

「はっ？」

こうして龍一達の5Dsの世界での戦いは始まった

5 D S 編プロローグ（後書き）

次回はコラボを書き上げる！ネタがでないけど・・・

コラボ編 鋼鉄VS岩石 マジンゴー！（前書き）

今回は冬將軍様の『流されて、デュエルアカデミア』とのコラボです
なお誠のキャラが間違っているかもしれないので先に謝っておきます。
冬將軍様、すいませんでしたー！！

コラボ編 鋼鉄VS岩石 マジンゴー！

「はぁー今日も疲れたなー」

授業も終わりレッド寮の自分の部屋の扉をあける龍一

「……………なんだこりゃ」

部屋にはでっかいダンボールが逆さまにおいてあった

「……………よつと」

とりあえず持ち上げてみる龍一。すると

「！」

頭にバンダナをまいた髭をはやしたおっさんがいた

「な、なんだあんだ！」

「俺はスネ、じゃなかった。俺は蛇、この小説の作者だ！」

「なんで作者が出演してんだよ！」

「お前にはこれから別の世界にいつてもらおう！そしてそこにいるデユエリストとデュエルしてこい！」

「話聞けや！ってなにバズーカ構えてんだよ。ちよつま」《ドカーン！》

「うつ、うつん。ここどこだ？」

龍一はただっ広い草原で目を覚ました

「なんだここ？」

「ちよつといいか？」

「ん？」

龍一が振り向くとオシリスレッドの服をきた中々にガタイのよい男がいた

「あんたは？」

「俺は小野寺 誠。デュエルするためにここにきたんだがあんたが相手か？」

「ああ作者の言ってたデュエリストってあんたか。俺は鋼野 龍一よろしくな」

「ああよろしく」

二人は握手をした

「で、小野寺」

「誠でいいぜ、俺も龍一って呼ぶからよ」

「そうか？じゃあ誠、お前の持つてるそのセブンイレブンの袋はなんだ？」

「ああこれか？俺の作者からあずかっってきたお土産だよ」

「お土産？」

「おう北海道の名物を預かってきたぜ」

「へえー、北海道の名物が」

何だろうか？白い恋人とかジンギスカンとかかな？

「じゃーん。北海道美唄市の名物、袋に入った焼きそばだ」

「聞いたこともないわケーー！」

「鈴音！？」

突如鈴音がハリセンで誠の頭をど突いた

「どうしてここに？」

「あ、ダーリン。なんかツッコミをせなあかん気配がしてなかけつけてきたんよ。それよかなんやそのお土産は見たことも聞いたこともないわ！」

「何を言う！この袋に入った焼きそばは秘密の県民SHOWで登場した翌日、北海道中の皆がいつせいに購入して美唄市のスーパークラその姿を消したほどの人気があったんだぞ（実話）」

「それはおいといてや、なんでセブンイレブンの袋からとりだしてん」

「テレビの影響であろうか今では美唄だけでなく道内のコンビニにも置かれている」

「それ聞いてありがたみが激減や！」

「バコーンと強烈な1激をくらい誠が首から地面に突っ込んでしまう。いや鈴音、さすがに死ぬだろう」

「そうやダーリン。作者がこれ渡すようにやって」

鈴音がセブンイレブンの袋を渡してきた

「じゃあうちは帰るわ」

鈴音はそのまま去っていった

「なんだこれ？お、アイスまんじゅうか」

「アイスまんじゅう？」

お、誠が復活した

「ああ松永牛乳っていう会社がつっていてな、福島県の相双地区のほうでしか売ってないんだよ」

「へへ食べてもいいか？」

「ああいいぞ」

「じゃあいただきます」

「あ、言い忘れてたけど固いから気をつけて《ガッ!》あゝ」

「いって、言うの遅いって」

「すまんすまん」

「で、ここはどこなんだ？誠はなにか聞いていないのか？」

「ああ、うちの作者が言うにはここは特別な空間でどちらかがデュエルで勝つまで出られないらしい」「なるほど……じゃあやることは一つだな」

「ああそうだな」

二人はお互いにデュエルディスクを構える

「デュエル!!」

「俺のターンドロー。俺は『巨大ネズミ』を守備表示で召喚しターンエンドだ」

巨大ネズミ

DEF 1450

誠

LP : 4000

手札 : 5

モンスター : 1

魔法・罫 : 0

「(なにも伏せない?)俺のターンドロー!よし俺は『鋼鉄戦士アナザラハール』を攻撃表示で召喚!」フィールドにラハールを小さくしたようなロボットがあらわれる

鋼鉄戦士 アナザラハール

ATK 1900

DEF 1500

効果・デュアル

このカードは墓地またはフィールド上に表側表示で存在する場合、通常モンスターとして扱う。フィールド上に表側表示で存在するこのカードを通常召喚扱いとして再度召喚する事で、このカードは効果モンスター扱いとなり以下の効果を得る。

このカードが表側表示でフィールド上に存在するかぎりこのモンスターは『鋼鉄神ラハール』として扱う

『ふん、この姿は少し動きにくいのだがな我慢するとしよう』

「おお！龍一の精霊か。カツコイイ〜」

アナザーラハールを見たたん目を輝かせる誠。その瞳はまるで僕達の街にあのロボットがやってきた、わ〜いと喜ぶ子供の純粹な瞳のようである

「いや〜、龍一の精霊はかつこよくていいな〜」

「俺の相棒だからな。そーいや誠は精霊いないのか？」

「!!!!!!」

突如誠の動きが止まる

「ハ、ハハハハ、なにをいってるのかな龍一君」

さつきまでの輝かしい顔が嘘の様に顔から生気が抜けていく俺なにかまずいこと言ったか？

(キユキユキユ〜)

「ん？」

突如誠のフィールドの巨大ネズミが消滅しフカフカ毛布に身を包んだ謎の生命体が出現する

なんだあの抱きしめたくなるかわいい生命体は

「もしかして、それが」

「……俺の精霊、巨大ネズミ(三女)です」

キユキユキユと鳴きながら巨大ネズミの精霊（三女）がラハールの頭に乗っかる

『な、何だこいつは！』

『キユツキユツキユキユ〜』

『ええい！離れろ！離れんか！』

翻弄するかのようにはラハールの体を移動し始める巨大ネズミ（三女）

『龍一！なんとかしろ！』

「なんとかって言われてもな。とりあえず装備魔法『アタックパーツ』を発動。アナザーラハールに装備！」

ラハールの右腕に巨大なドリルが装備される

アタックパーツ

装備魔法

効果

このカードは『鋼鉄戦士』と名のつくモンスターにしか装備することはできない。このカードを装備したモンスターが守備表示モンスターを攻撃したとき攻撃力が守備力を越えていればそのぶん相手LPにダメージを与える

「すげー！ドリルだ！」
誠が再び目を輝かせる

「いくぞ！アナザラハールで巨大ネズミを攻撃！」

『うおらあー！』

『キューー！』

巨大ネズミ（三女）をドリルで貫くラハール。うう、なんだか罪悪感が

誠LP：4000 3550

「くっ！貫通効果か。だが巨大ネズミの効果でデッキから『激昂のムカムカ』を特殊召喚する！」

『オツシヤ、私の出番だね』

「ん？なんか声が聞こえなかったか？」

「き！気のせいだと思うぞ！」

「そっか？」

「とにかく！俺の手札は5枚、よって激昂のムカムカの攻撃力は3200！」

「3200か・・・やっかいだな。カードを2枚伏せてターンエ

ンドだ」

龍一

LP：4000

手札：2

モンスター：1

魔法・罫：3

「俺のターンドロー！この瞬間、激昂のムカムカの攻撃力は3600になる。バトルだ！激昂のムカムカでアナザーラハールを攻撃。アングリーブロー！」

「させるか！罫発動、『くず鉄のかかし』激昂のムカムカの攻撃を無効にするぜ」

「防がれたか。ならカードを1枚伏せてターンエンドだ」激昂のムカムカ
攻撃力3600 3200

誠

LP：3550

手札：5枚

モンスター：1

魔法・罫：1

「俺のターンドロー！くつ、『鋼鉄戦士 ドリル・クラスタ』を

守備表示で召喚」

鋼鉄戦士 ドリル・クラスタ

DEF1700

「効果でデッキからジェット・クラスタを手札に加える。アナザ
ーラハールを守備表示にしてターンエンド」

龍一

LP：4000

手札：3

モンスター：2

魔法・罫：3

「よし、俺のターンドロ。『ロックストーン・ウォリアー』を攻
撃表示で召喚！激昂のムカムカでアナザラハールを攻撃。アング
リーブロー！」

「くっ！」

「あれ？ならロックストーン・ウォリアーでドリル・クラスタを
攻撃！」

「『くず鉄のかかし』発動！」

「なるほどドリル・クラスタを守るために一体を犠牲にしたのか。

「なら俺はこれでターンエンドだ」

誠

LP：3550

手札：5

モンスター：2

魔法・罠：1

「俺のターンドロー！『鋼鉄戦士 ジェット・クラスター』を攻撃表示で召喚！」

鋼鉄戦士 ジェット・クラスター

ATK1600

「そしてジェット・クラスターの効果を発動！伏せカードを手札に戻す！」

「ムカムカじゃなくて伏せカードを？」

「いくぜ！2体を除外し合体だ！」

「が、合体だつて!？」

ドリル・クラスターが下半身にジェット・クラスターが上半身にそれぞれ変形し2体が合体する

「合体完了！『鋼鉄戦士 マックス・クラスター』！」

鋼鉄戦士 マックス・クラスター

ATK 2700

「うおー！本当に合体したー！けどまだ攻撃力は激昂のムカムカのほうが高いぞ？」

「甘いな、マックス・クラスターのモンスター効果発動！1ターンに1度相手モンスターの表示形式を変更できる。激昂のムカムカを守備表示に！」

激昂のムカムカ

DEF 2600

「しまった！」

「いくぞ！マックス・クラスターで激昂のムカムカを攻撃、インパクト・ナツクル！」

マックス・クラスターの拳が激昂のムカムカを貫く

「うわっ！」

誠 LP : 3550 3450

「よし、俺はこれでターンエンドだ」

龍一

LP：4000

手札：3

モンスター：1

魔法・罫：2

「俺のターンドロロー！俺はモンスターをセット、カードを2枚伏せてターンエンド」

誠

LP：3450

手札：4

モンスター：2

魔法・罫：2

「俺のターンドロロー！（伏せカードが2枚か）なら俺は『鋼鉄戦士セイバーソルジャー』を攻撃表示で召喚！」

龍一のフィールドに剣をかついだロボットがあらわれる

鋼鉄戦士 セイバーソルジャー

ATK 1700

DEF 1500

効果

このカードは畏の効果を受けない

「マックス・クラスターでロックストーン・ウォリアーを攻撃、インパクト・ナックル！」

「畏発動『聖なるバリアミラーフォース』！」

「くっ、だがセイバーソルジャーは畏の効果を受けない！セイバーソルジャーで裏守備モンスターに攻撃！」

「俺のモンスターは『メデューサワーム』だ」

「よし、これでターンエンドだ」

龍一

LP：4000

手札：3

モンスター：1
魔法・罠：2

「俺のターンドロー！よし手札から『サイクロン』発動！くず鉄のかかしを破壊だ！」

「しまった！」

「さらに『モアイ迎撃砲』を攻撃表示で召喚」

モアイ迎撃砲
ATK1100

『がんばりましょう誠さん』

「また聞こえた。しかも誠を名指ししてたような・・・」

「・・・ロックストーン・ウォリアーでセイバーソルジャーを攻撃！」

「おい」

龍一 LP：4000 3900

「さらにモアイ迎撃砲でダイレクトアタック、イースターレーザー
キャノン！」

「ぐっ！」

龍一 LP: 3900 2800

「モアイ迎撃砲を裏側守備表示にしてターンエンドだ」

誠

LP: 3450

手札: 4

モンスター: 2

魔法・罠: 1

「俺のターンドロー！よし『おろかな埋葬』を発動アンティーク・
クラスターを墓地におくる。そしてアンティーク・クラスターを除
外し『鋼鉄戦士 レトロ・クラスター』を特殊召喚！」
古びた機械の巨人があらわれる

鋼鉄戦士 レトロ・クラスター

ATK 2800

「レトロ・クラスターでロックストーン・ウォリアーを攻撃、ミサイルパーティー！」
ロックストーン・ウォリアーがレトロ・クラスターの放った大量のミサイルにより粉々になる

「っ、だがロックストーン・ウォリアーが戦闘を行うとき俺に発生する戦闘ダメージは0になる」

「なら俺はこれでターンエンドだ」

龍一

LP：2800

手札：3

モンスター：1

魔法・罠：1

「俺のターンドロー、くっ俺はモンスターをセットしてターンエンドだ」

誠

LP：3450

手札：4
モンスター：2
魔法・罫：1

「俺のターンドロ、『鋼鉄戦士 スナイパー13』を攻撃表示で召喚！」

鋼鉄戦士 スナイパー13
ATK1600
DEF1800

効果

このモンスターが裏側守備表示モンスターと戦闘を行う場合ダメージ計算をせずそのモンスターを破壊する

「レトロ・クラストーとスナイパー13でそれぞれ裏守備モンスターを攻撃！」

レトロ・クラストーがモアイ迎撃砲をスナイパー13が裏守備表示だったマイン・ゴーレムを破壊する

「うっ、2体ともやられちゃったか」

「よっし、ターンエンドだ」

龍一

LP：2800

手札：3

モンスター：2

魔法・罫：1

「俺のターンドロー！よし俺は墓地の岩石族モンスターを5体除外し、待たせたな相棒、俺は『メガロック・ドラゴン』を特殊召喚する！！」

「メガロック・ドラゴンだつて！」

岩石デッキみたいだから警戒はしていたがやっぱりきやがったか！

「………つて、アレ？」

誠がデュエルディスクにメガロック・ドラゴンのカードをセットするがいつこうに立体映像で姿があらわれない。デュエルディスクの故障だろうか？

「アレ？相棒どこいった？」

「ハツハツハ、ココだよココ」

「え！！！」

「ん？」

聞き慣れない声があったので振り返ると俺の背後にはボーイッシュな女性が立っていた。誰だこの人？

「いやゝさすがは誠、いいタイミングで私を召喚するね」
私を召喚？

「いいから早く戻ってきてくれ」

「ハイハイ、せっかちなだねまったく」

軽く俺の肩を叩きチャオつと言って誠にむかって歩き出す謎の女性

「さて、それじゃあいくよ」

ゴゴゴゴゴと地面が割れはじめいくつもの岩石が謎の女性を包み込みバキバキバキと変形しメガロック・ドラゴンの形となった

メガロック・ドラゴン

ATK3500

「って、もしかして今の人」

「……………俺の相棒のメガロック・ドラゴンです」
なるほど誠の精霊はなぜか擬人化しているのか。

「……………少しうらやましいかもしれん」

《バキッ!》

「ガハッ!」

急に頭に衝撃がはしる。後ろを振り返ってみるとプリンが立っていた

「な、なんだプリン。急にどうした」

「フン。ご主人なんか知らないのだわ」

「なんだよいつたい」

「続けていいか？」

「ああすまん。続けていいぞ」

「んじゃメガロツク・ドラゴンでレトロ・クラスターに攻撃、アイスカノン・インフェルノ！！！！」

「ぐわっ！！」

龍一 LP：2800 2100

「ターンエンドだ」

誠

LP：3450

手札：4

モンスター：1

魔法・罠：1

「俺のターンドロー！おっ悪いな誠、勝ちもらったぜ」

「へっ、やれるもんならやってみる！」

「んじゃいくぜ。俺はチューナーモンスター『ホバーパイルダー』を攻撃表示で召喚！」

ホバーパイルダー

星3

ATK900

DEF1500

効果

このカードは1ターンに1度破壊されない

「ホバーパイルダーだって!？」

「いくぜ!星4スナイパー13に星3ホバーパイルダーをチューニング!立ち上がれ鉄の城!その鉄拳で悪の野望を打ち砕け!シンクロ召喚、神にも悪魔にもなれる鉄の城、『マジンガーZ』!!!」

マジンガーZ

ATK2600

DEF2500

効果・シンクロ

『ホバーパイルダー』+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度手札を2枚まで捨てることができる。その後捨てた枚数分だけ相手フィールド上にセットされたカードを破壊する

「おおー！マジンガーZだ！でも攻撃力が足りないぜ？」

「ふっ、そう焦るなよまずはマジンガーZの効果発動！手札を1枚捨ててその伏せカードを破壊する、ロケットパンチ！」
マジンガーZの拳が発射され誠のセットカードを貫く

「うわっ！『炸裂装甲』が！」

「さらに装備魔法『強化型ロケットパンチ』を発動、マジンガーZに装備！」

強化型ロケットパンチ

装備魔法

効果

このカードは『マジンガー』と名のついたモンスターにしか装備できない。このカードを装備したモンスターは攻撃力が1000ポイントアップする。このカードを装備したモンスターが相手モンスターを戦闘で破壊したときそのモンスターのそのときの攻撃力分のダメージを相手に与える。このカードは装備したターンのエンドフェイズに墓地に送られる

「これによりマジンガーZの攻撃力は10000アップする」

マジンガーZ

ATK 2600 3600

「メガロック・ドラゴンを越えた!？」

「ちなみにこのカードを装備したモンスターが相手モンスターを破壊したときそのモンスターのそのときの攻撃力分のダメージを与えるぜ」

「なにつ!」

「マジンガーZでメガロック・ドラゴンに攻撃、強力ロケットパンチ!」

マジンガーZが強化されたほうの腕を回しその遠心力でロケットパンチを発射、誠をまきこんでメガロック・ドラゴンを破壊する

「うわあああ!」

誠LP: 34500

「ちえっ、俺の負けか」

「楽しいデュエルだったぜ誠」

「ああ俺も楽しかったぜ」

そのときお互いの後ろに扉が現れた

「おっどうやら帰れるみたいだな」

「ああじゃあな誠」

「次は負けないぜ龍一」

二人はそれぞれ扉をくぐった

「え、ダーリン？」

「へっ？」

扉をくぐった先は『着替え中』の鈴音の部屋だった

「ダ、ダーリンのエッチー！」

「ちよっ、まっ、誤解、ギヤアアア！……！」

作者いつか殺す、そう龍一は思いながら鈴音にボコボコにされていた

コラボ編 鋼鉄VS岩石 マジンゴー！（後書き）

アイスマンじゅうつて全国に発売されてるやつとか色々あるみたい
ですね。でもやっぱり地元、原町のが1番！

5 D・S 編第一話 六つの光が今、一つの勇気になる(前書き)

タイトルは今回でてくるスーパーロボットのoppからとりました。
なにがでてくるかわかるかな？

5D・s 編第一話 六つの光が今、一つの勇気になる

さて5D・sの世界にきたわけだが時期的にはまだ初期のようだがなみに俺達はシティの一軒家に住んでいる

アキトはジャックにどうやって会うか毎日模索中だ。

ちなみにいまのところ外出するときはサングラスにマスクと顔を隠して外出させている。ジャックそっくりだからしかたないんだよな

仁はあいかわらずの方向音痴のためへたに外出させないようにしている。一度一人で外にでて三日ほど帰って来なかったことがある。

どうやったらサテライトの中心に誰にも見つからずにいけるのか聞きたい。というかよくセキュリティに見つからずに帰ってこれたな

鈴音はこつちで友達を作ったらしくよく遊びに行っている。まあ最近はやたらと俺と一緒にいようとしているが。え？なぜかって？まあ理由は俺がどういう状態かを話せばわかるだろう

さて俺だが

「ツァンはん？うちのダーリンにベタベタするのやめてくれへん？」

「べっ！ベタベタなんかしてないわよ！それに龍一のほうから近づいてくるの。ボクからは近づいてないわよ！」

「ふーん。それがダーリンをデートに誘いにきた人のセリフ？」

「デデデ、デートじゃないわよ！ボクは買い物についてくるように！」

「それをデートと言わずになんて言うねん！」

目の前で鈴音とツアン・ディレの二人が喧嘩している
俗にいう修羅場だ

なぜこういうことになったのか話は一週間前に遡る
あの日は買い物を終え家に帰る途中だった

「さーて、これで「ちょっとやめてよ!」「ん?」
ふと道の反対側を見るとピンク髪の女の子が数人の男に絡まれていた

「そんなこと言わないでいっしょに遊ぼうぜ」

「そうそう忘れない一日にしてやるからさ」

「お断りよ!」

「時代が変わってもいるんだなああいうの」
俺はため息をつきながら集団に近づき、

「ん?なんだお前は!?!」一人づつ気絶させていく

「こんなもんか、あんた大丈夫か?」

ピンク髪の子を見る。あれ?この子って……

「なによ、人の顔ジロジロ見て」

この子タッグフォースにでてたツァン・ディレじゃないか？

「ああすまん。で、怪我とかないか？」

「あんに心配されるようなことはなに一つないわよ」

「そうか、じゃあ俺はこれで」

「あ………」

その日はそこで終わりだったんだが後日鈴音がツァンを友達としてうちに連れて来たんだよな。で、再開 自己紹介 普通に話すようになる いつのまにか修羅場って感じた

「ハア、ハア。行くよ龍一」

「ん？ああ」

どうやら決着がついたらしい

「くうく。次は負けへんで！」

デュエルで決着をつけたのか。まあ六武衆は強いからな

「やっと見つけたぜ」

「うん？」

ツアンとベンチに座り休憩していたら変な男が声をかけてきた

「……あなた誰？」

「忘れたとは言わせねえぞ！いきなり気絶させやがって！」

「ああ、この前ツアンのことナンパしてたやつか」

「あの時は油断してたからくらったが今回はそうはいかねえぞ！覚悟しやがれ！」

そういつてデュエルディスクを構えるナンパ男。ああ喧嘩じゃなくてデュエルなんだ

「しゃあねえな」

とりあえず左腕をデュエルディスクに変形させてつと

「ん？どうした？」ナンパ男だけではなくツアンまで驚いた顔をしている

「あんたその腕、ただの義手じゃなかったの！？」

「んゝまあ気にするな」

「気にするわよ！」

「さあデュエルだ」

「聞きなさいよ！」

「デュエル！！」

「先行は俺だ！ドロー！『切り込み隊長』を攻撃表示で召喚！さらに隊長の効果で『コマンド・ナイト』を攻撃表示で召喚！『連合軍』を発動しターンエンドだ！」

切り込み隊長 ATK 2000

コマンド・ナイト ATK 2000

ナンパ男

LP：4000

手札：3

モンスター：2

魔法・罠：1

連合軍か、めんどうだな

「俺のターン、ドロー！お。『サイクロン』を発動、連合軍を破壊するぜ」

「くそっ！」

「んでもって『ガイヤー』を攻撃表示で召喚」
フィールドに赤いロボットが現れる

ガイヤー

星4 属性光

ATK2500

DEF100

効果

このモンスターが破壊されたときプレイヤーは3000のダメージを受ける。フィールド上にスフィックス、ウラヌス：タイタン、シン：ラーが揃っているときガイヤーと上記のカードを除外することにより、『六神合体 ゴッドマーズ』を特殊召喚することができる

「なっ！星4でATK2500だと！」

「まあその分デメリットがすごいけどな。ガイヤーで切り込み隊長を攻撃するぜ」

「うわっ！」

ナンパ男LP4000 3100

「カードを1枚伏せてターンエンドだ」

龍一

LP：4000

手札：4

モンスター：1

魔法・罫：1

「ちっ！俺のターンドロー！コマンド・ナイトをリリースして『絶対防御將軍』を守備表示で召喚！」

絶対防御將軍 DEF 2500

「ターンエンドだ」

ナンパ男

LP：3100

手札：3

モンスター：1

魔法・罫：0

「俺のターンドロー。んじゃ『リロード』を発動。手札を全てデッキに戻しシャッフル、んで戻した分だけドロー！」
あ、これ勝ったわ

「手札から『スフィンクス』『ウラヌス：タイタン』『シン：ラー』の三体を特殊召喚！」

フィールドに5体のロボットが現れる

「な、なんで5体も！？というか今三体って言ったじゃねえか！」

「しかたなたいだろ？そういうカードなんだから」

スフィンクス

星5 属性闇

ATK2000

DEF2300

効果

自分フィールドにガイヤーが存在するときこのカードは手札から特殊召喚することができる

ウラヌス：タイタン

星5 属性水

ATK1900

DEF1500

効果

自分フィールドにガイヤーが存在するときこのカードは手札から特殊召喚することができる。このカードは風属性としても扱う

シン：ラー

星5 属性火

ATK1900

DEF1500

効果

自分フィールドにガイヤーが存在するときこのカードは手札から特殊召喚することができる。このカードは地属性としても扱う

「んでもってフィールドの4体を除外し、現れる！」六神合体
ゴッドマーズ『！』

フィールドにいた6体のロボットが合体し1体のロボットになる

六神合体 ゴッドマーズ

星10 属性光

ATK4000

DEF4000

効果

このカードは通常召喚することができない。ガイヤーの効果でのみ特殊召喚することができる。1ターンに一度以下の効果から一つを選び発動することができる

- ・相手フィールドのカードを一枚破壊する
- ・相手モンスター一体を守備表示にする
- ・相手モンスターの攻撃力を1000下げる
- ・相手の手札をランダムに一枚選びデッキの一番下に戻す

・自分のデッキからカードを一枚ドロウする
・このカードをデッキに戻し除外されている『ガイヤー』『スフィンクス』『ウラヌス：タイタン』『シン：ラー』の四体をフィールドに特殊召喚する

「な、なんだそのカードは!?!」

「いくぜ、ゴッドマーズの効果を発動し絶対防御將軍を破壊!ゴッドファイヤー!」

ゴッドマーズの腰のMの辺りから光線が放たれ絶対防御將軍を破壊する

「そんな!」

「さて、これで終わりだ!ファイナル・ゴッドマーズ!」

腰のMが実体化した剣、マーズフラッシュによりナンパ男は斬られる

「う、うわあああ!」

ナンパ男LP31000

「チクシヨ―！覚えてやがれ！」

ナンパ男はそのまま走りさっていった

「……なんか呆気なかったわね」

「そうか？まあゴッドマーズだからなレオパルドンよりは遅いほつ
だろし」

「……なに言ってるの？」

「わからないならそれでいいよ」

5D・S 編第一話 六つの光が今、一つの勇気になる（後書き）

龍一のスーパーロボット講座

「さて始めました龍一のスーパーロボット講座です。アシスタントは〜」

「私だわさ」

「さて今回のスーパーロボットは『六神合体ゴッドマーズ』です！このロボットは六体のロボットが合体して誕生するロボットだ！」

「ご主人、質問だわさ」

「なんだプリン」

「なんでガイヤーをデメリットモンスターにしたんだわさ？」

「いい質問だ。元となったガイヤーなんだが、このロボット、パイロットであるマーズが死ぬと機体の動力源でもある反陽子爆弾が爆発するんだよ」

「なんか、名前からしてやばそうな動力源だわさ」

「で、このとき地球が滅ぶんだよね。これならデメリットを持たせたほうがいいだろうと思ってこんな効果になったのさ」

「へ〜」

「さてこのコーナーではみんなのスーパーロボットにたいする疑問を募集するぜ」

「遊戯王なのに？」

「遊戯王好きな人にはわかりずらいかなと思って……疑問はメッセージのほうにお願いするぜ。スーパーロボットをカードにしよ
うのコーナーも引き続き続けていくのでよろしく！」

「それじゃさよならだわさ」

5 D・S 編設定

鋼野 龍一

身長：189cm

体重：65kg

デッキ：鋼鉄戦士デッキ、魔法使い族デッキ、様々なスーパーロボ
ットデッキ

補足：5 D・Sの世界にくる前に仮様に改造されたことにより体の
70%が機械になった。左腕はまんま機械の腕でデュエルディスク
に変形する。また身体能力もかなり上がっている。新たな鋼鉄神を
2体手に入れた

鋼鉄神ラハール

5 D・Sの世界にきたことにより出番が減るかもしれない龍一の精
霊。よく一人で散歩している。最近赤いマフラーを巻きはじめた

プリン（ブリザード・プリンセス）

大喰らいの氷のお姫様。龍一の精霊。

鋼鉄神アデル

全身真っ赤な新たな鋼鉄神。卑怯な行動を嫌い、正々堂々を好む。

女嫌い

鋼鉄神マオ

人前でよく興奮したり欲情したりする新たな鋼鉄神。意外に傷つきやすい

音宮 鈴音

身長：170cm

体重：秘密

スリーサイズ：セブンスターズのところからそんなに変わってない

デッキ：炎デッキ

補足：龍一との関係は得に進展していない龍一の彼女。いい雰囲気になってもいつもなにかしら邪魔が入る

火ぎつね

作者が出すタイミングを完全に失った鈴音の精霊

紅 仁

身長：177cm

体重：54kg

デッキ：ドラゴンデッキ

補足：龍一の親友。あいかわらずの方向音痴。最近精霊が見えるようになった

竹虎 アキト

身長：193cm

体重：64kg

デッキ：デーモンデッキ、ジャック風味デッキ

補足：龍一と同じ転生者。5D・sの世界では色々と問題があるためデーモンデッキを使うようになった

ダーク・リゾネーター

アキトの精霊。そのうち登場予定

ツアン・ディレ

身長：163cm

体重：言えるわけじゃない！

スリーサイズ：少し大きめ／少し太っ……読めなくなっている
デッキ：六武衆

補足：5D・s編からの新たなヒロイン。ナンパされているところを龍一に助けられる。そこからだんだん仲良くなっていった

5 D・S 編第二話 フォーチュンカップ開幕。龍一とアキトそれぞれのデュエル

今回声優に詳しくない方には先に謝っておきます。すみません

「デュエル・オブ・フォーチュンカップ？」

「そうそれに参加してほしいんだよ」

突然部屋に現れた仮様が俺とアキトに告げる

「参加するのは構わないが招待されなければ参加できないはずだぞ」

「そこらへんは大丈夫、神様パワーで二人を参加させるから持つている杖をくるくる回しながら答える仮様

「なんだそりゃ。どうするアキト」

「もちろん参加する。なにせ本物のジャックに会えるしな」

「ふーん。じゃあ俺も参加するかな」

「ありがとう。じゃあこれ」

そういつて俺達に招待状を渡す仮様

「アキトにはこれもね」

仮様はアキトに黒い大きなマントと大きくXと書かれた仮面を渡す

「なんだこれは？」「見た目まんまジャックだからフォーチュンカップでは謎の男、ミスターXとして出場するようだね」

ふむ確かに、へたすりゃ大騒ぎだからな

「これでは不審者ではないか」
まあそれも言えてるな

「大丈夫。大きな大会に謎の人物はつきものだから」

「なんだそりゃ」

「じゃあ頼んだよ」

そう言っつて仮様は煙のように消えた

「とりあえずデッキ調整でもするかな」

「ふむ、声も変えたほうがいいのだろうか？」
そうして時は過ぎていった

デュエル・オブ・フォーチュンカップ当日

俺達はスタジアムの地下にいる。ふと隣のミスターXアキトを見る。仮様から支給された仮面で顔を隠し黒いマントで体を隠し、黒いフードで頭を隠している。・・・うん、不審者だ

ミスターXから視線を外し他の参加者を見る。俺とミスターXというレギュラーがいるからか他にも二人増えている。一人は執事みたいになかつこをした爺さん。もう一人は美人な女性だ。あ、俺の視

線に気づいたのか女性がウインクしてきた。ふむ、鈴音やツアンにはない大人の女性の魅力がするな
お、上がり始めた。なまのジャックを見て隣のミスターXが少し興奮しているきがする

そんなことを考えていると出場選手の姿がモニターに映し出される。ミスターXがでて観客達がざわめく。さらに遊星の姿が映しだされさらに観客がざわめく

「おい、マーカー付きがいるぞ」

「なんであんな不審者招待したんだ？」
などなど

そんな中一人の男がMCからマイクを奪い取り話しはじめる

「お集まりの諸君！私の名前はボマー、ここに立つデュエリストとして諸君が何を見ているのかを問いたい！」
ボマーは遊星とミスターXの二人を指差す

「彼等は我々と同じ条件で選ばれた紛れも無いデュエリストだ！マーカーがあるのが不審な姿をしていようがカードを持てば皆同じだ。この場に立っていることに何ら恥じる事はない。むしろ彼等に対する諸君等の言葉は暴力に他ならない！」

そう言つて元の位置に戻っていく。場内から拍手がまきおこる。その後治安維持局長官の演説が終わり一回戦の組み合わせが発表される。ミスターXの相手は龍可、今は龍亜が変装してるんだっけか？原作だと相手はボマーだったから変わったみたいだな

遊星の相手は死羅、これは原作通りだな
で、俺の相手は・・・風鳴 さやか？さっきの女の人か？まあなんとかなるだろ。さて、ミスターXのデュエルを見るか

観客席

「ダーリンの出番はまだかな？」

「まだまだ先だろう」

「なんでボクまで……」

鈴音、仁、ツアンの三人は龍一達の応援にきていた

「別にええやん。ツアンかてダーリンが活躍するところ見たいやろ？」

「別に龍一の活躍なんてどうでもいいわよ」

「二人とも第一試合が始まるぞ」

仁の言葉に二人はデュエルフィールドに目を向ける

「さあ！第一試合のデュエリストの紹介をしよう！おそらく全世界の子供達が彼女を羨ましく思っているだろう！参加最年少、舞い降りたデュエルの天使、ミス龍可ちゃん！」

MCの紹介とともにデュエルフィールドに現れる龍可（龍亞）

「対するは！なにもかもが謎の存在、ミスターX！」

デュエルフィールドに現れたミスターXは

「フハハハハ！こオの私と戦うことオになるとは不幸だなア小娘エ！後悔するといい！（CV若本）」
若本ボイスで喋りはじめた

観客席

「な、なんやあの声！」

「なにか練習していたとおもったらこれだったのか」

龍一の控室

「なんで若本ボイス？似すぎだろ」
ミスターXがアキトであることを知っている三人は驚いていた

「へん！後悔なんかしないさ。絶対にお前に勝ってやるもんね！」

「あらあら勇ましい女の子ね。でも残念、あなたの負けは決まっているよ（CV小林ゆう）」

「え？女の人？」
いきなり声が変わったミスターXに龍亞は戸惑う

「ハッハッハッ！俺は男でなく女でもない！不思議な存在、それが俺ミスターXだ！（CV檜山修之）」

実はミスターXはこの大会のために特訓により自由に声を変える技を習得しているだけなのだが、それを知らない他の人間（龍一達三人を除く）は完全にミスターXを怪しいやつとして認識した

「さあ始めようか、楽しいデュエルを！（CV子安武人）」

「デュエル！！」

「俺のターン、ドロー！よし『D・モバホン』を攻撃表示で召喚！シャキーン！」

D・モバホン

ATK100

「モバホンのモンスター効果、ダイヤルターン！モバホンが攻撃表示の時ダイヤルに表示された数字分デッキからカードを引いてその中にレベル4以下のディフォーマーがいれば特殊召喚することができるんだ」

モバホンの1〜6のダイヤルがルーレットのように点滅し3で止まる

「3だから3枚引いて、よし『D・ラジカッセン』を守備表示で特殊召喚！」

D・ラジカッセン

DEF400

「カードを1枚伏せてターンエンド!」

龍亞

LP：4000

手札：4

モンスター：2

魔法・罫：1

「俺のターン、ドロ!俺は『灰塵王 アツシュ・ガツシュ』を召喚するぜ(CV藤原啓治)」

灰塵王 アツシュ・ガツシュ

ATK1000

「アツシュ・ガツシュでモバホンに攻撃!(CV藤原啓治)」
モバホンに切り掛かるアツシュ・ガツシュ

「させるか!罫カード『ディフォーム』発動、キラーン!この効果でモバホンを守備表示にしてモンスターの攻撃を無効にするんだ!」

「ちっ、防がれたか。ならカードを1枚伏せターンエンドだ(CV藤原啓治)」

ミスターX

LP：4000

手札：4

モンスター：1

魔法・罠：1

「俺のターンドロ、ババーン！よしモバホンを攻撃表示に変更、そして効果を発動ダイヤルオン！」
1で止まる

「1だから1枚引いて、あちゃーいないや。じゃあ『D・クロツクン』を守備表示で召喚！」

D・クロツクン

DEF1100

「クロツクンが守備表示のときこのカードにディフオーマーカウンターを1つ置けるんだ。俺は1つ置くよ」

D・クロツクン

ディフオーマーカウンター：1

「そしてラジカッセンを攻撃表示に変更してバトル！ラジカッセン

でアツシュ・ガツシュを攻撃！」

「畏発動、『冥王の咆哮』！（CV松本梨香）」

「ええ！」

「このカードは自分の悪魔族モンスターが戦闘を行うとき発動できる。自分のLPを1000単位で払い払った分だけ相手モンスター1体の攻守をダウンする！俺様は1200払う！（CV松本梨香）」
ミスターXLP4000 2800

D・ラジカツセン
ATK12000

「迎え撃て！アツシュ・ガツシュ！（CV松本梨香）」

「うわぁ！」

龍亞LP4000 3000

「さらにアツシュ・ガツシュの効果発動！このカードが相手LPにダメージを与えた時このカードのレベルを一つ上げる（CV松本梨香）」

アツシュ・ガツシュ

星4 5

「くっそ〜カードを1枚伏せてターンエンド」

龍亞

LP：3000

手札：3

モンスター：2

魔法・罫：1

「俺のターンドロ〜！『ダーク・スプロケッター』を召喚。そして星5灰塵王 アツシュ・ガツシュに星1ダーク・スプロケッターをチューニング！（CV大塚芳忠）」
ダーク・スプロケッターが光の輪になりそこにアツシュ・ガツシュが入る

「天を焼くシリウス、孤狼の蒼き瞳よ、地に縛られた牙無き犬共を噛み砕け！シンクロ召喚！『天狼王 ブルー・セイリオス』！（CV大塚芳忠）」

天狼王 ブルー・セイリオス

ATK2400

「ブルー・セイリオスでモバホンを攻撃、ウルフス・ファンゲ天狼蒼牙！（CV大塚芳忠）」

ブルー・セイリオスがモバホンを噛み砕く

「うわあああ！」

龍亞LP3000 700

「カードを1枚伏せターンエンドだぜ（CV大塚芳忠）」

ミスターX

LP:2800

手札:3

モンスター:1

魔法・罫:1

「負けるもんか！俺のターンドロ！よし、クロツクンをリリースして『ガジェット・トレーラー』をアドバンス召喚、ドーン！ガジェット・トレーラーの効果、手札のデイフオーマーを1枚墓地に送り攻撃力を800アップ！さらに速攻魔法『百機夜工』を発動！墓地のデイフオーマー4体を除外してガジェット・トレーラーの攻撃力を800アップ！」

ガジェット・トレーラー

ATK1300 2900

「ガジェット・トレーラーでブルー・セイリオスを攻撃！ガジエツ

ディングキャノン、ファイヤー!!」
ガジェット・トレーラーの砲撃がブルー・セイリオスを包み込む

ミスターX

LP2800 2300

「ブルー・セイリオスの効果発動!このモンスターが破壊されたとき相手モンスター1体の攻撃力を2400ダウンさせる、ブルー・サブレイメイション蒼天昇牙!
(CV矢尾一樹)」

砲撃の中からブルー・セイリオスの首が飛び出しガジェット・トレーラーに噛み付く

「ううターンエンド」

ガジェット・トレーラー

ATK0

龍亞

LP:700

手札:1

モンスター:1

魔法・罫:1

「私のターンドロ。さて、そろそろ終わりにするでしょう。リバースカードオープン」リミット・リバース」発動、墓地の灰塵王アッシュ・ガッシュを特殊召喚。さらに「ダーク・リゾネーター」を召喚。星4アッシュ・ガッシュに星3ダーク・リゾネーターをチ

ユニング（CV池田秀一）
「ダーク・リゾネーターが光の輪になりその中にアッシュ・ガッシュが飛び込む」

「天頂に輝く死の星よ！地上に舞い降り生者を裁け！シンクロ召喚、降臨せよ！」天刑王 ブラック・ハイランダー』（CV池田秀一）

天刑王 ブラック・ハイランダー
ATK2800

「攻撃力2800！」

「せっかくだプレゼントをあげよう。『ビックバン・シュート』をガジェット・トレーラーに装備（CV池田秀一）」

「え？なんでそんなことを？」

「ブラック・ハイランダーの効果を発動。ブラック・ベナルティ黒星裁判！（CV池田秀一）」

ガジェット・トレーラーに装備されたビックバン・シュートが破壊される

「ええ！？」

「ブラック・ハイランダーの効果、1ターンに1度装備カードを装備した相手モンスターを選択しそのモンスターの装備カードを全て破壊、そして破壊した数×400ポイントのダメージを与える（C

V池田秀一」

「うわぁ!」

龍亞LP700 300

「さらに破壊されたビックバン・シユートの効果でガジェット・ト
レーターを除外!さぁこれでおしまいだ。天刑王 ブラック・ハイ
ランダーでダイレクトアタック、死兆星^{デス・ボラ・スレイ}斬! (CV池田秀一)」

「うわぁぁぁぁ!」

龍亞LP300 0

「勝者決定!2回戦進出したのはミスターX選手!」

「是非もなしイ!フハハハハ!(CV若本)」

座り込む龍亞の前でミスターXはただ笑っていた

5 D・S 編第二話 フォーチュンカップ開幕。龍一とアキトそれぞれのデュエル

次回は龍一のデュエルです

5 D・S 編第三話 フォーチュンカップ開幕。龍一とアキトそれぞれのデュエ

お待たせしました後半です

観客席

「次はいよいよダーリンの番やな〜」

4試合が終わり次はいよいよ龍一の番である

「……………ふん」

ツアンは興味なさそうにしているがそわそわしているところを見ると楽しみなようだ

「第五試合のデュエリストを紹介するぞ！まずは鋼の魂をもつ男、

鋼野 龍一！」

「ダーリン、がんばってや〜」

鈴音の応援が聞こえる。よし、いっちょやってやるか

「対戦相手はこの人、歌手でありプロデュエリストでもある風の歌姫、風鳴さやか！」

MCの紹介とともに現れる女性。やっぱりこの人だったか。というか歓声がすごい

「ふふ、あなたが私の相手ね。さっき私のことを見ていたという」とはファンかしら？」

「いや、俺あんたのこと知らないし」

「……………ごめんなさい。よく聞こえなかったからもう一回言ってくれら？」

なにやらプルプル震えている

「だからあなたのことは知らないって。名前もさっき初めて知ったし」

「へ〜〜。そう、わかったわ。ボコボコにしてあげる!」
なにやらすごく怒っている

「上等だ! 返り討ちにしてやるぜ!」

「デュエル!」

「先行はもらうぜ。俺のターン、ドロー! 俺は手札から永続魔法『リサイクルサイクル』を発動!」

「リサイクルサイクル?」

「このカードは1ターンに1度、手札の機械族モンスターを1枚捨てることによりデッキから捨てたモンスターと同じレベルの機械族モンスターを手札に加えることができる。俺は『鋼鉄戦士 スクラップマン』を捨てデッキから2体目のスクラップマンを手札に加える」

「なんでわざわざそんなことを?」

「そのうちわかるさ。俺は『鋼鉄戦士 チューニングマスター』を召喚!」

龍一 の場に細身のロボットが現れる

鋼鉄戦士 チューニングマスター

星4

ATK1000

DEF1000

効果

このモンスターの召喚に成功したときデッキからチューナーを1体手札に加えることができる。このモンスターを素材にシンクロ召喚を行ったときデッキからカードを1枚ドロウすることができる

「このモンスターの召喚に成功したときデッキからチューナーを手札に加えることができる。俺は『ブレインコンドル』を手札に加える。カードを1枚伏せターンエンドだ」

龍一

LP:4000

手札:4

モンスター:1

魔法・罫:2

「私のターンドロウ、私は『ハーピィ・レディ1』を攻撃表示で召喚するわ」

ハーピー・レディ1
ATK1300

「バトル！ハーピー・レディ1でチューニングマスターを攻撃！」

「リバースカードオープン『くず鉄のかかし』！」

「防がれたか・・・私はカードを1枚伏せターンエンドよ」

さやか

LP：4000

手札：4

モンスター：1

魔法・罫：1

「俺のターンドロー！俺はチューナーモンスター『ブレインコンドル』を攻撃表示で召喚！」
龍一の場合に赤い飛行機が現れる

ブレインコンドル

星4 チューナー

ATK1200

DEF300

効果

このカードは1ターンに1度だけ戦闘では破壊されない

「星4チューニングマスターに星4ブレインコンドルをチューニング。偉大なる勇者、雷の轟きとともに現れる。友の危機を救え！シンクロ召喚！スクランブルダッシュ！『グレートマジンガー！』」
龍一の場合にいたブレインコンドルが光の輪になりそこにチューニングマスターが飛び込む。次に現れたのは黒い魔神だった

グレートマジンガー

星8 シンクロ

ATK2800

DEF2850

効果

ブレインコンドル+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度、手札を1枚捨てることにより相手フィールドの表側表示で存在するカードを1枚破壊することができる

「チューニングマスターの効果で1枚ドロー。そして手札を1枚捨てグレートの効果を発動！相手フィールドの表側表示で存在するカードを1枚破壊することができる！ハーピー・レディ1を破壊、アトミックパンチ！」
グレートが拳をハーピー・レディにむかって飛ばす

「させないわよ、リバースカードオープン『ゴッドバードアタック』」

「なに！」

「ハーピー・レディーをリリースしグレートマジンガーとくず鉄のかかしを破壊するわ」

ハーピー・レディーが火の鳥となりグレートマジンガーとその後ろにセットされていたくず鉄のかかしに突っ込む

「くつ、勝ちを急ぎすぎたか（だがまだ策はある）。俺はリサイクルサイクルの効果を使いスクラップマンを捨て3枚目のスクラップマンを手札に加える。これでターンエンドだ」

龍一

LP：4000

手札：3

モンスター：0

魔法・罫：1

「私のターンドロ。私は『ハーピー・レディー』を攻撃表示で召喚。さらに魔法カード『万華鏡・華麗なる分身』を発動するわ」

「げっ」

少し嫌そうな顔をする龍一

「ふふ、効果で『ハーピー・レディ三姉妹』をデッキから特殊召喚するわ」

さやかの場合のハーピー・レディーが分身し新たに三体のハーピー・レディーが現れる

「ハーピー・レディ1の効果で風属性モンスターの攻撃力は300アップするわ」

ハーピー・レディ1

ATK1600

ハーピー・レディ三姉妹

ATK2250

「まずはハーピー・レディ1でダイレクトアタック！続けてハーピー・レディ三姉妹でダイレクトアタック、トライアングル・X・スパーク！」

三姉妹が放った光線が龍一を包み込む

「うわあああ！」

龍一 LP4000 150

「カードを一枚伏せて、これでターンエンド。サレンダーするなら今のうちよ？」

さやか

LP：4000

手札：2

モンスター：2

魔法・罾：1

「誰が諦めるかよ。俺のターンドロー！」
・・・今はこいつに賭けるか

「手札から魔法カード『ダイ・ガード組み立て中』を発動！デッキから『ガードファイター』『ガードストライカー』『ガードビークル』を墓地に送りエクストラから『ダイ・ガード』を特殊召喚する！」

ダイ・ガード

星6 融合

ATK2000

DEF1000

効果

ガードファイター+ガードストライカー+ガードビークル

このカードを召喚する場合融合は必要しない。自分フィールドの上記のカードを墓地に送るか『ダイ・ガード組み立て中』の効果のみ特殊召喚することができる

1ターンに1度デッキから装備魔法を1枚手札に加えこのカードに装備することができる。この効果は装備魔法が装備されている場合発動できない。1ターンに1度このカードに装備されている装備魔法をデッキに戻し、別の装備魔法をこのカードに装備することができる

「ダイ・ガードの効果を使いデッキから『ノットバスター』を手札に加え、装備！」ダイ・ガードの右腕がノットバスターへと変わる

ノットバスター

装備魔法

効果

このカードは『ダイ・ガード』または『コクボウガー』にのみ装備することができる。このカードを装備したモンスターは攻撃力が800アップする。装備モンスターが相手モンスターを戦闘により破壊したとき相手に300のダメージを与える

ダイ・ガード

ATK2000 2800

「ダイ・ガードでハーピィ・レディ1に攻撃。ノットバスター。アタアアツク！」
ダイ・ガードがハーピィ・レディ1に走って近づき、ノットバスターで貫く

「きゃあ！」

「さらにノットバスターを装備したモンスターが相手モンスターを破壊したとき、相手LPに300のダメージを与える！」

「な！きやつ！」

さやかLP4000 2500

「リサイクルサイクルの効果を使いスクラップマンを捨て、『鋼鉄神の使い』を手札に加える。これでターンエンドだ」

龍一

LP：150

手札：3

モンスター：1

魔法・罠：2

「やってくれたわね、私のターンドロー！」
ドローしたカードを見てなにやら笑みをつかべるさやか

「まずは手札の『ハーピー・クイーン』を墓地に送り、『ハーピーの狩場』を手札に加えるわ。そして手札を一枚捨て、『ヒステリック・パーティー』を発動！ハーピー・レディ1三体とハーピー・クイーンを特殊召喚！さらに『ハーピーの狩場』を発動！」

ハーピー・レディ1×3

ATK 2400

ハーピー・クイーン

ATK 3000

ハーピー・レディ三姉妹

ATK 2950

「おーっと、これは勝負あつたか!?!」
場の状況にMCが騒ぎだす

「ハーピー・レディ三姉妹でダイ・ガードに攻撃! トライアングル・X・スパーク!」

「くっ、墓地の『鋼鉄戦士 ガード・クラスター』のモンスター効果を発動。このカードを除外することによりこのターン俺のモンスターは戦闘では破壊されずダメージも受けない!」
ダイ・ガードの前に巨大な壁が現れ攻撃を防ぐ

「なるほどグレートの時墓地に送っていたのね。まあいいわ、私はカードを1枚伏せターンエンドよ」

さやか

LP : 2500

手札 : 0

モンスター : 5

魔法・罨：3

「くっ、俺のターンンドロー！よし、『二重召喚』を発動。このターン俺は2回通常召喚を行うことができる！そして『鋼鉄神の使い』を攻撃表示で召喚！」

鋼鉄神の使い

星2

ATK600

DEF500

効果

このカードの召喚に成功したときデッキから鋼鉄神と名のついたモンスターを1枚手札に加えることができる

「鋼鉄神の使いの効果によりデッキから『鋼鉄神アデル』を手札に加える。そして墓地のスクラップマン達の効果を発動！墓地に存在するこのカードを除外することで自分フィールドにスクラップトゥン（星1/攻0/守0）を特殊召喚する！」

スクラップトゥン×3

ATK0

「そんな雑魚を攻撃表示で並べてどうするのかしら？壁にもならないわよ」

「いくぜ！三体をリリースし、現れる『鋼鉄神アデル』！」
龍一のフィールドに巨大な魔法陣が現れそこから赤い体のロボット、
鋼鉄神アデルが現れる

『さーて、やりますか』

鋼鉄神アデル

星10

ATK3500

DEF3500

効果

このカードは特殊召喚できない。自分フィールド上に存在するモンスター3体をリリースした場合のみ通常召喚することができる。このモンスターが存在する限りお互いに魔法・罫を発動することはできない。このモンスターは相手フィールドにモンスターが存在する限り連続で攻撃することができる

『って女だらけじゃないか！』

ハーピーだらけのフィールドを見て叫ぶアデル

「鋼鉄神アデルでハーピー・クイーンに攻撃、業火拳！」
それを無視してアデルに命令をする龍一

『ぐっ、くっそー！』

炎を纏った拳でハーピー・クイーンに殴り掛かるアデル

「させないわ！畏発動！つてあら？」

さやかは畏を発動しようとするがなぜか発動できない

「残念だったな。アデルが存在する限りお互いに魔法・畏は発動できないんだよ！」

「な、なんですって！きゃあ！」

さやかLP2500 2000

「くっ、だけど残りのダイ・ガードだけでは私を倒しきれない！私の勝ちよ！」

「残念だったな。アデルは相手にモンスターがいるかぎり連続で攻撃できるんだよ！」

「なんですって！」

「いけ！アデル！業火拳四連打！」

『うおおおお！』

ハッピー達を連続で倒していくアデル

「きゃああああ！」

さやかLP2000 0

「決まったー！見事に2回戦進出したのは鋼野龍一選手だ！」

「よっしゃー！」

『くっ、こんな状況はこれっきりにしてくれよ』

「それは無理だろうな」

5 D · S 編第三話 フォーチュンカップ開幕。龍一とアキトそれぞれのデューエ

さて次回はちょっとした企画が……

1周年だよ！全員集合！

蛇「というわけで1周年です」

龍「よくここまで続いたもんだ」

ラハール「で？俺様達を集めてなにをするんだ？」

プリン「こっちは食事の途中なんだから、早く済ませるだわさ」

蛇「まあ1周年だから集まってもらっただけなんだけど」

鈴音「なんやそれ？じゃあうちらはとくになにもするわけでもなく集められたっちゆうことかいな」

蛇「いや、ほんとは人気投票とか超コラボとか考えたんだけどさ。まだその時じゃないなって思ってたさ」

仁「ちよつと待て。その超コラボとやらはなんだ？」

蛇「ん？超コラボってのは様々な遊戯王小説のオリキャラ達を集めて大会をやっちゃおうって感じなんだけどさ。大会やれるほど集まるわけないし。なにより俺には荷が重過ぎるきがしてさ」

アキト「まあ確かにお前には無理だな」

蛇「というわけで本編に力をそそいでいきたいと思います」

龍「まあ妥当な判断だな」

蛇「じゃあ今回はこれで終わりですので。次回でまた会いましょう」

龍「1年もこの小説につきあってくれた皆さん、これからもよろしく願います。では、また次回！」

一周年だから一度コラボした人ともう一度コラボしてみたよ編 鋼の魂VS沈黙

今回は1周年ということで以前コラボしました紅煌蒼さんの遊戯王GX 静かなる力と再びコラボさせてもらいました

一周年だから一度コラボした人ともう一度コラボしてみたよ編

鋼の魂VS沈黙

これはフォーチュンカップ開催より前の話

「え〜と」

俺は自分の部屋でデッキ調整をしていた
そのときだった

「え？」

俺の真下に穴が開き

「どわあああ！」

俺はその穴に落ちていった

「いてっ！」

俺は妙な空間に落ちた

「やあ〜無事到着したようだね」

隣から聞いたことのある声があったから見てみたら仮様がいた

「なにが無事だ！っていうかお前は落とす以外に……京哉？」

ふと仮様の後ろを見ると京哉とアリスとたしかカイトにイザナミだっけか？

「久しぶりだな龍一」

「おお久しぶりだな京哉！・・・なんか縮んだか？」

「いやいや、お前がでかくなっただけだろ。というかその右腕どうしたんだ？」

右腕？ああ

「このバ仮様に改造されてな
仮様の頭を掴み持ち上げる

「いたっ！ちよっギブギブ！」

「give?なにをくれるんだ？
はっはっはっ。まったくこいつは

「ちよっ！やめっ！」

「で、なんで京哉達がいるんだ？
痛がっている仮様を無視して京哉に質問する

「その神様に呼ばれたんだよ。もう一度龍一とデュエルしてくれっ
て」

へー

「なにか条件はあるのか？」
仮様を掴んでいる手を離し質問する

「いたたつ。そ、そうだね特には条件はないよ」

「なるほど、俺様の力を見せる時がきたのか」
「いつのまにかラハール達が隣にいた」

「あ、プリンだ！久しぶり」

「久しぶりだわさ。アリス」
手を取り合いながら再開を喜ぶ、アリスとプリン

「龍一、こいつらは誰なんだ？」
ラハールと同じく隣にいた赤いロボット、鋼鉄神アデルが質問してきた

「ん？あ、お前等は会ったことなかったな。こいつは立花京哉。昔デュエルした仲なんだ。で、京哉に紹介しとくぜ。俺の新しい仲間、鋼鉄神アデルと鋼鉄神マオだ」
後ろにいたバイザーをかけたロボット、鋼鉄神マオも一緒に紹介する

「へ〜新しい仲間か」
ん？マオがカイトのことをじっと見ているな

「どうしたマオ？」

「.....」

マオは無言でカイトのことを見ている
カイトも視線に気づいたようだ

「なにか「いい！」「よう.....え？」

自分になにか用があるのかとカイトが質問しようとするすると突然マオが大声をあげる

「ハアハア、その引き締まった体！整った顔立ち！ああ、どれも素晴らしい！」

ハアハアと興奮しながらすごい勢いで喋るマオ

俺達は慣れているけどあちらさんには刺激が強すぎたようでみんな引いている

とくにイザナミなどはどん引きである

まだまだ甘いな。本当の恐怖はこれからだぞ

「ハアハア。ああ、ぜひとも……」

マオの体が変形し小型ドリルやメス、さらには機械でできた触手のようなものまで出現する

「改造したい！我の物にしたいいいい！」

マオの触手がカイトに襲い掛かる

「くっ、はあっ！」

カイトはその触手を切り払う

マオは今度は剣を構えながら突っ込んでくる

「お前が我を拒否するなら、我はお前を力づくで我のものにする！」

そう言いながらカイトに切り掛かるマオ。辺りに剣がぶつかり合う音が響く

「ぐう……」

徐々に押され始めるカイト

「あの変態、なかなかやりますわね……」

「まああんなんでも機械族の神様だからな」
つて言ってる場合じゃないな

「ラハール！アデル！」

「まったく、あの馬鹿は……俺様の顔に泥をぬるような真似をし
おって！」

「っしやあ、やってやるぜ！」

剣をマフラーから取り出し構えるラハールと拳を構えるアデル
二人はマオに飛び掛かる。数分かけてなんとかマオをカイトから引
き離しマオを押さえ込む

「すまんな京哉。こいつ手に負えなくてな。ほらマオもあやまれ」

「………すまん」

ラハールとアデルに押さえられながら、しぶしぶあやまるマオ

「ははっ、龍一も苦労してるんだな」

「我が儘に大喰らいに戦闘狂に変態。俺の精霊にまともなやつはい
ないのか……」

「そんなことより早くデュエル始めて「黙れ元凶」ギヤアアアア！
っ、潰れるううう！」

再び仮様の頭を掴み持ち上げる

「ちよっ、落ち着け龍一！頭握り潰して脳が飛び散るなんてグロ描
写は勘弁してくれ！」

「はあ……京哉に感謝しろよ」
仮様の頭から手を離してから京哉から距離をとる

「さあ！気を取り直してデュエルといくか！」
左腕をデュエルディスクへと変形させる
京哉は俺の左腕の変形に少し驚いたようだが

「ああ、いくぜ！」
すぐに気を取り直しデュエルディスクを構える

「デュエル！！」

「先行は俺だ、ドロー！」
ドローしたカードを見る。ふむこの手札なら……

「まずは永続魔法『アイアンキャッスル鋼鉄戦士の城』を発動する。このカードは俺が機械族モンスターを召喚するたびにこのカードに鋼鉄力ウンターを二つのせ、それを取り除く数により様々な効果を発揮する」
俺の場に機械仕掛けの城が現れる

「さらに『鋼鉄戦士 スナイパー13』を攻撃表示で召喚！
巨大なライフルを持ったロボットが俺のフィールドに現れる。いまさらだがなんで13なんだ？

鋼鉄戦士 スナイパー13
ATK1600

「機械族モンスターを召喚したことにより鋼鉄カウンターが鋼鉄戦士の城にのる。カードを一枚伏せ、ターンエンドだ」

鋼鉄戦士の城：鋼鉄カウンター×2

龍一

LP：4000

手札：3

モンスター：1

魔法・罠：2

「俺のターン、ドロー！」

さあ、どうくる京哉？

「俺は『戦姫・イザナミ』を召喚！」

『出番のようですね』

戦姫・イザナミ
ATK1900

イザナミか。そついや効果しないんだよな、どんな効果なんだ？

「バトル！イザナミでスナイパー13を攻撃！」

「はあっ！」

イザナミの剣により真つ二つになる13

龍一 LP 4000 3700

「くっ、リバーズカードオープン！『鋼の絆』！自分の機械族モンスターが破壊されたときそのモンスターと攻撃力が同じかそれ以下の機械族モンスター一体をデッキから特殊召喚する。俺は『鋼鉄戦士 スーパーディフェンダー』を守備表示で特殊召喚する」
俺の場に現れたのは分厚い装甲で盾を構えたモンスターだ

鋼鉄戦士 スーパーディフェンダー

星2

ATK 100

DEF 2100

効果

フィールド上にこのモンスターが守備表示で存在するとき相手はこのモンスター以外に攻撃を行うことはできない

「さらに機械族モンスターを召喚したことにより鋼鉄カウンターがさらにのる」

鋼鉄戦士の城：鋼鉄カウンター×4

「それ特殊召喚も含まれるのかよ。じゃあ俺はイザナミの効果発動！イザナミは戦闘破壊したモンスターのレベル×200攻撃力が上がる！」

戦姫 - イザナミ
ATK 1900 2700

「げっ」

嫌な効果だな。元々が1900だからそこの星4モンスターは簡単に破壊されるだろうし。簡単に攻撃力が上がっていくな……

「俺はカードを二枚伏せてターンエンドだ」

京哉

LP：4000

手札：3

モンスター：1

魔法・罫：2

「イザナミをなんとかしないとな。俺のターンドロー！」

よし、これならいけそうだな

「俺は『ブライサンダー』を攻撃表示で召喚！
一台の赤い車が現れる

ブライサンダー

星2

ATK800

DEF400

効果

このカードをリリースすることでデッキから『ブライスター』を特殊召喚することができる

「え？」

「ブライサンダーの効果発動、このカードをリリースすることでデッキから『ブライスター』を特殊召喚する。ブライ・シンクロン・アルファ！」

ブライサンダーが光に包まれ、戦闘機へと変形する

ブライスター

星5

ATK1500

DEF800

効果

800LP払うことでこのカードを手札から特殊召喚することができる

「え？え？」

「機械族を召喚したことにより鋼鉄カウンターが二つの。そして鋼鉄戦士の城の効果発動！鋼鉄カウンターを6こ取り除くことにより手札の機械族モンスターを一体、特殊召喚することができる。現れる、チューナーモンスター『鋼鉄戦士 メタルキッド』！」

鋼鉄戦士 メタルキッド

星2 チューナー

ATK600

DEF700

効果

このカードが機械族モンスターのシンクロ召喚に使用され墓地に送られたとき、デッキからカードを一枚ドロウすることができる

「星5ブライスターと星2スーパーディフェンダーに星2メタルキッドをチューニング、夜空の星が輝く陰で、悪の笑いがこだまする。星から星に泣く人の、涙背負って宇宙の始末。シンクロ召喚！銀河旋風ブライガー、お呼びとあらば即参上！」

光の輪の中でブライスターが変形していき一体のロボットになる

ブライガー

星9 シンクロ

ATK2900

DEF2100

効果

チューナー+ブライスター+チューナー以外のモンスター1体以上魔法・罠が発動されたとき800LP払うことでその効果を無効にし破壊することができる

「え？え？ええええええ！」

突然大声を上げる京哉

「うおっ！どうしたんだ？」

「いや、どうしたもなにもなんでブライガーがカードになってるんだ？」

「仮様からもらったんだよ。他にもマジンガーにゲッター、ガオガイガーなんかもあるぞ」

「な、なんだってー！？」

わーお、ものすごく驚いてるな

「まあ気を取り直して、まずはブライガーを召喚したことにより鋼鉄力ウンターがのる」

鋼鉄戦士の城：鋼鉄カウンター×2

「さらにメタルキッドの効果で一枚ドロ。そしてブライガーでイザナミに攻撃、ブライソード！」
狼のマークが書かれている剣が出現、ブライガーは、その剣でイザナミに切り掛かる

『くっ、京哉！』

「分かってる！俺は畏カード『和睦の使者』を発、ブライガーのモンスター効果発動！」動。え？」

「魔法・畏が発動されたとき800LP払うことで、その効果は無効にし破壊することができる。和睦の使者を無効にする。撃ち抜け、コズモワインダー！」
コズモワインダー
小型の銃で和睦の使者を撃ち抜く

龍一LP3700 2900

「こんどこそ、いけえ！」
ブライソードでイザナミを斬るブライガー

『きゃあ！』

「くっ、姫が……」

京哉LP4000 3800

「伏せカードを追加して、ターンエンド！」

龍一

LP：2900

手札：3

モンスター：1

魔法・罠：2

「俺のターン、ドロー！あれ？」
引いたカードを見て首をかしげる京哉

「どうした？融合モンスターでも入ってたか？」
たまにやっちゃうんだよね

「い、いやなんでもない。俺は『シャインエンジェル』を守備表示で召喚！」

シャインエンジェル

DEF800

「カードを1枚伏せてターンエンド！」

京哉

LP：3800

手札：2

モンスター：1

魔法・罫：2

「リクルーターか……俺のターンドロー！」
ふむ……

「俺は『グランカイザー』を攻撃表示で召喚！」
俺の場に青いロボットが現れる

グランカイザー

星4

ATK1800

DEF1200

効果

このカードがフィールド上に存在するかぎり相手は自分フィールド
のモンスターの表示形式を変更することはできない

鋼鉄戦士の城：鋼鉄カウンター×4

「おお、今度はグランカイザーか！」

さて、ブライガーで大ダメージを与えたいところだが、伏せカードが気になるしなによりオネストが怖い。ここは……

「ブライガーでシャインエンジェルを攻撃、ブライスピーアー！」

今度は狼のマークが書かれた槍でシャインエンジェルを突き刺す

「破壊されたシャインエンジェルの効果発動、攻撃力1500以下の光属性モンスター1体をデッキから攻撃表示で特殊召喚することができる。俺はシャインエンジェルを特殊召喚！」

シャインエンジェル

ATK1400

「ふむ……ならグランカイザーでシャインエンジェルを攻撃
！」

シャインエンジェルに蹴りを放つグランカイザー

京哉LP3800 3400

「くっ、シャインエンジェルの効果でデッキから『サイレントソードマンLV3』を特殊召喚！」

サイレントソードマンLV3

ATK1000

「(やっぱりか)俺はこのままターンエンド!」

龍一

LP:2900

手札:3

モンスター:2

魔法・罫:2

「俺のターンドロ!そしてスタンバイフェイズにサイレントソードマンLV3の効果発動。このカードを墓地に送ることでデッキ、または手札から『サイレントソードマンLV5』を特殊召喚する!」

サイレントソードマンLV5

ATK2300

「さらに手札から『レベルアップ!』を発動!サイレントソードマンをLV7にレベルアップ!いくぜカイト!」

『御意!』

京哉の言葉に力強く答えるカイト。しかしこれまたやっかいなのがきたな

サイレントソードマンLV7

ATK2800

「いくぜ、サイレントソードマンでグランカイザーを攻撃、沈黙の剣！」

『はああああ！』

ここでグランカイザーを失うわけにはいかないな

「畏発動『くず鉄のかかし』！」

「くず鉄のかかし？」

「このカードは相手モンスターの攻撃宣言時に発動することができる。相手モンスター1体の攻撃を無効にする」ジャンクでできたかかしが現れカイトの剣を受け止める

「さらにこのカードは発動後、墓地に送らずそのままセットする」

「使いませる畏ってわけか、ならこれでターンエンドだ」

京哉

LP：3400

手札：2

モンスター：1

魔法・罠：2

「俺のターン、ドロ！俺はチューナーモンスター『鋼鉄戦士ギアゴーレム』を攻撃表示で召喚！」

機械でできたゴーレムが現われる

鋼鉄戦士 ギアゴーレム

星3 チューナー

ATK900

DEF1000

効果

このモンスターの召喚に成功したときデッキから星2以下の機械族モンスター1体を特殊召喚することができる

「そしてギアゴーレムの効果を発動。デッキから『鋼鉄戦士 スクラップマン』を特殊召喚する」

今度はボロボロのロボットが現れる

鋼鉄戦士 スクラップマン

星1

ATK100

DEF100

効果

墓地に存在するこのカードを除外することで自分フィールド上にスクラップトークン（星1/攻0/守0）を特殊召喚することができる

「星4グランカイザーと星1スクラップマンに星3ギアゴーレムを
チューニング、重力の騎士よ、今心を一つに重ね、牙無き者の牙と
なれ！シンクロ召喚、現れよ『ゴッドグラヴィオン』！」

グランカイザーに戦闘機などが合体していき新たなロボットになった

ゴッドグラヴィオン

星8 シンクロ

ATK2500

DEF2100

効果

チューナー+グランカイザー+チューナー以外のモンスター1体以上
このカードのシンクロ召喚に成功した時、デッキ・手札・墓地から
超重剣のカードを手札に加える。手札のカードを1枚墓地に送るこ
とでフィールド上のカードを1枚墓地に送ることができる

271

「すっげえ！グラヴィオンだ！」

「ゴッドグラヴィオンの効果でデッキから『超重剣』を手札に加え
る」

さてオネストの危険があるが、ここは

「ブライガーで一騎打ちだ！ブライソード！」
剣を構えサイレントソードマンへと突っ込む

「そうはさせないぜ、ダメージステップに手札から『オネスト』を
発動！相手の攻撃力分攻撃力をアップする！」

げっ！覚悟はしてたがきついな……

サイレントソードマンLV7

ATK2800 5700

『むん！』

サイレントソードマンの剣がブライソードを押し返しブライガーを
真っ二つにする

「ぐわあああ！」

龍一 LP2900 1000

「くっ（先に効果を使っていたら勝てたな……）いまさらだな。

俺は手札を1枚捨てゴッドグラヴィオンの効果発動、フィールドの
カードを1枚墓地に送る、グラヴィティクレセント！」

ゴッドグラヴィオンの投げたブーメランがサイレントソードマンを
切り裂く

『くっ、すみません京哉様』

「カイト！」

「ほんとに戦闘で倒したかったんだがな。俺はこれでターンエンド
だ」

龍一

LP：100

手札：4

モンスター：1

魔法・罫：2

「俺のターンドロー！」

さてとりあえず守りは万全だ。あとはあのカードを引ければ勝てる。あれ？京哉がカードに話し掛ける？アリスは違うデッキだろうし他の精霊か？

「はあ、しかたないな。俺は『壺の中の魔導書』を発動、お互いに3枚ドロー！」

壺の中の魔導書か、俺持ってないんだよな

「ドロー！」お、このカードは

「そして『カイザーシーホース』を攻撃表示で召喚！続いて『リビングデッドの呼び声』を発動、姫を蘇生！さらに『死者蘇生』を発動、サイレントソードマンLV5を特殊召喚！」

カイザーシーホース

ATK1700

戦姫 - イザナミ

ATK1900

サイレントソードマンLV5
ATK2300

「なんだ？なににするきだ？」

『京哉、いまさら蘇生させて、なんのつもりですか？』

「すまんな姫。『二重召喚』を発動！そしてモンスター3体を生け贄にささげ」

『もう退場ですよ！？』

「主との契約の下に・・・天より現し、大地を照らせ！降臨せよ、ラーの翼神竜」！「ラーの翼神竜
ATK5900

『我、参上！』

「な、ラーだつて！？つーか喋った！？」『初めましてだな、異世界のデュエリストよ。我はラーだ』

「いや、知ってるけど・・・というか、なんで京哉がラーを？」

「いや、まあ色々あって手に入れたんだ。それよりいくぜ？ラーの翼神竜でゴッドグラヴィオンを攻撃、ゴッドブレイズキャノン！」

「まだ終わらせないぜ。墓地の『鋼鉄戦士 ガード・クラスター』のモンスター効果発動！このカードを除外することで、このターンの俺のモンスターは戦闘では破壊されずダメージもつけない！」
困ったときのガード・クラスターってね

「あゝ防がれたか。じゃあこのままターンエンドだ」

京哉

LP：3400

手札：0

モンスター：1

魔法・罫：2

「俺のターンドロ―！」
よっしゃ！そろった！

「どうやらいいカードを引いたみたいだな。顔がにやけてるぜ？」

「ああ、とびつきりいいカードを引いたぜ。まずは『大嵐』を発動
！」

さあ、舞台は整った

「俺は『鋼鉄神の試練』を発動！俺の手札とフィールドのカードをすべて墓地に送り効果発動！俺はいまからカードを1枚ドロ―する。それが鋼鉄神と名のつくモンスターだった場合、召喚条件を無視して特殊召喚する！」

「それってかなり無茶じゃないか？」

「ああ。しかもこの状況を覆せる鋼鉄神は3体の内、1体のみ！」

「つまり、そいつを引けば……」

「俺の勝ちだ。いくぜ、ドロー！……」

「……引いたカードは？」

「……引いたカードは『鋼鉄神マオ』だ！現れるマオ！」
俺のフィールドに巨大な魔法陣が現れそこからマオが姿を表す

『実験開始だ』

鋼鉄神マオ

星10

ATK3500

DEF3000

効果

このモンスターは特殊召喚できない。自分フィールド上のモンスター3体をリリースした場合のみ通常召喚することができる。1ターンに1度、自分の墓地に存在する機械族モンスター1体を自分フィールドに特殊召喚することができる。自分フィールドに存在する機械族モンスターを装備魔法としてこのカードに装備することができる。このカードの攻撃力は装備したモンスターの攻撃力分アップする

「マオの効果で墓地のゴッドグラヴィオンを蘇生する」

ゴッドグラヴィオン

ATK2500

『ほう、機械の神か。だがその貧弱な体では我には勝てんぞ?』

『ふん。鳥がなにやら鳴いているな。とつと黙らせるぞ龍一』

「あいよ。マオのもう一つの効果発動！自分フィールドの機械族モンスターを装備魔法として装備することができる！魔改造！」

『さあ、我の力となれ!』

マオがゴッドグラヴィオンに手を翳すとゴッドグラヴィオンが大剣へと変形する

鋼鉄神マオ

ATK3500 6000

「ラーを越えた!？」

「マオの攻撃力は装備した機械族モンスターの攻撃力分アップする。さらに墓地の装備魔法『鋼鉄神の神器』の効果。このカードは自分フィールドに鋼鉄神と名のついたモンスターが存在するとき墓地から手札に加えることができる。手札に加え装備！」

マオの首に鏡が掛けられる

「このカードは装備する鋼鉄神により効果を変える。マオが装備した場合、二回攻撃が可能になる！」

「ってことは……」

「悪いが勝たせてもらうぜ。マオでラーに攻撃、超重斬！」

『むん！』

マオがラーの頭まで飛び上がり頭から真っ二つに切り裂く

『ぐわあああ！』

「くう！」

「そのままダイレクトアタック！エルゴ・エンド！」

『とどめだ！』

京哉LP34000

「くっそ。俺の負けか」

「へへっ、いい勝負だったぜ」

グッ

「ご主人。お腹がすいたのだわさ」

「いきなりだな……。そうだ、前は俺がご馳走になったし今回は

俺がご馳走するか」

「それは嬉しいけど、料理できるのか？」

「京哉ほどじゃないができるほうだよ」

「そうか、それじゃあご馳走に「やめたほうがいい」ラハール？
京哉が振り向くとラハールが肩をつかんでいた

「やめたほうがいいって、どういうことだ？」
「なんだろな？まあいいや」

「仮様。調理器具とかだしてくれ」

「私をドラミたいに使うのはやめてほしいんだけどな」
仮様はしゅしゅといった形でキッチンなどを出す
さて無難に炒飯でもつくるかな

調理中

「ほら、できたぞ」

仮様が用意したテーブルについている京哉達に炒飯を配っていく

「いただきますだわさ」

プリンが普通に食べはじめたのを見て京哉達は恐る恐る食べはじめ
る。すると……

「甘っ！この炒飯甘っ！」

「か、辛いですわ〜！」

「に、苦いよ〜」

「……普通だ」

上から順に京哉、イザナミ、アリス、カイトだ

「だから言っただろう。龍一を作る料理は80%の確率で爆弾だってみんなの様子を見て呟くラハール。失礼なやつだな

「ほら、お前も食べ」

ラハールの口に一皿分の炒飯を流し込む

「酸っぱい！これ酸っぱい！」

「そんなにおかしいか？」

「なあ、龍一」

「ん？」

「この前の代金なんだが」

「……」

仮様が開いてくれたワームホールに飛び込む

「あ！おい！」

「そこの神にでも請求しとくんだな」

続いてラハール達も飛び込む

「悪いな京哉、また会おうぜ！」

こうして俺の京哉との2回目の会合は終わった
またデュエルできるといいな

一周年だから一度コラボした人ともう一度コラボしてみたよ編 鋼の魂VS沈黙

次は冬將軍さんの予定です

5D・S 編第四話 VSボマー。龍一の罪（前書き）

すごくお待ちせしました

5 D・S 編第四話 VS ボマー。龍一の罪

大会の一日目が終了し一息ついていた龍一の部屋に仮様がやってきた。仮様の脇には銀色に輝くバイクがある

「これが君のDホイール。『シルバーロザリオ』だよ」

「銀の十字架ねえ。というか俺ライセンス持ってないし動かしかもわからないんだが大丈夫なのか？」

シルバーロザリオを触りながら仮様にライセンスのことを聞く龍一

「大丈夫！ライセンスは神様パワーで用意したし動かしかたも体が覚えてるから！」

「体が覚えてる？どういうことだ？」

「あ。え、え」と。じゃあ準々決勝頑張ってね！
慌てて姿を消す仮様

「あ！おい！ったく、なんだったんだ？」

少し腑に落ちないがこちらから仮様を捕まえる手段はないためおとなしくベッドに入る龍一

「しかしボマーか」

一通りの試合が終わったあと発表された準々決勝の組み合わせ。龍一はボマーとデュエルすることになった

「楽には勝たせてくれないだろうな」

やはりデッキのチェックぐらいはしとくかと考えていると

「ダーリン一緒に寝よ！」
部屋に鈴音が飛び込んできた

「うわっ！なにこのバイク！めっちゃかっこええ！」
シルバーロザリオに興奮する鈴音。そんな鈴音に龍一は

「やかましい！」

「いだっ！」

デコピンを喰らわせ部屋から追い出す

「はあ………寝よ」

無駄に体力を消費し疲れたのか眠りにつく龍一。だからこそ気づかなかったのかもしれない。自分のデッキから漏れ出ている闇に

翌日

「いよいよ大会2日目！泣いても笑っても、今日でキングへの挑戦者が決定する！さあいくぞ、準々決勝第1試合は鋼の魂を持つ男、龍一VS黒き暴風ボマー！」

MCの紹介が終わると同時に龍一がDホイールに乗って現れる

「きゃー！ダーリン！」

「あいつDホイール運転できたんだ……」

「とうかずいぶんと派手なバイクだな」

自身の彼氏が派手なバイクにまたがる姿に興奮する鈴音。龍一がDホイールを運転できたことに驚くとともにちよつとカッコイイかもと思うツアン。バイクの派手さに少し引く仁

そしてボマーが爆音とともに巨大なDホイールで登場する
スタート地点につく二人

「お前が私の相手か。悪いが、勝たせてもらっぞ」

「それはこつちのセリフだ。あんたがどれだけ強かろうと勝つのは俺だ」

二人はフィールド魔法『スピード・ワールド』を発動する

「これでフィールドはスピード・ワールドによって支配された！発動できる魔法はSpのみ！さあ、ライディングデュエルアクセラレーション！」

「デュエル！！」

デュエルが始まると同時に猛スピードで突っ走る龍一

「（ほんとに体が動かし方をわかってやがる。いったいどういうことだ？）先行は俺だ、ドロー！俺は『鋼鉄戦士 ハルバードアーミー』を攻撃表示で召喚！」

鋼鉄戦士 ハルバードアーミー

星4

ATK 2100

DEF 1100

効果

このモンスターは直接攻撃することができない

「カードを2枚伏せて、ターンエンドだ」

龍一

LP: 4000

手札: 3

モンスター: 1

魔法・罫: 2

「私のターンドロロー！」

龍一 SPC 0 1

ボマー SPC 0 1

「私は『キラー・トマト』を守備表示で召喚する」

キラー・トマト

DEF 1100

「（キラール・トマト、闇属性専用のリクルーターか。恐らくマジック・リアクターがトラップ・リアクターをリクルートする気だな）」

「私もカードを2枚伏せターンエンドだ」

ボマー

LP：4000

手札：3

モンスター：1

魔法・罠：2

龍一SPC1 2

ボマーSPC1 2

「俺のターン、ドロ―！俺は『鋼鉄戦士 セイバーソルジャー』を攻撃表示で召喚！」

鋼鉄戦士 セイバーソルジャー

ATK1700

「セイバーソルジャーでキラール・トマトを攻撃！」

セイバーソルジャーが剣をふるいキラール・トマトを縦に切り裂く

「キラール・トマトのモンスター効果発動！キラール・トマトが戦闘で破壊されたときデッキから攻撃力1500以下の闇属性モンスター

1体を攻撃表示で特殊召喚することができる。私は二体目のキラークラッシュを特殊召喚！」

キラークラッシュ

ATK1400

「ならハルバードアーミーで二体目のキラークラッシュを攻撃！」
ハルバードアーミーのハルバードがキラークラッシュを横一閃に切り裂く

ボマーLP4000 3100

「くっ、キラークラッシュの効果で『トラップ・リアクター・RR』を特殊召喚する！」

トラップ・リアクター・RR

ATK800

「俺はこのままターンエンドだ」

龍一

LP:4000

手札：3
モンスター：2
魔法・罫：2

龍一SPC 2 3
ボマーSPC 2 3

「私のターンドロー！私は『マジック・リアクター・AID』を攻撃表示で召喚する！伏せカードを1枚追加しターンエンドだ！」

マジック・リアクター・AID
ATK 1200

ボマー

LP：3100

手札：2

モンスター：2

魔法・罫：3

龍一SPC 3 4
ボマーSPC 3 4

「俺のターンドロー！俺はハルバードアーミーでトラップ・リアク

ターに攻撃する！」
トラップ・リアクターに切り掛かるハルバードアーミー

「この瞬間私は畏を発動！『フェイク・エクスプロージョン・ペンタ』！このカードはモンスターを戦闘による破壊から守り、その後手札から『サモン・リアクター・AI』を特殊召喚する！」

ボマーLP3100 1600

ボマーSPC4 3

サモン・リアクター・AI
ATK2000

大きなダメージをくらい減速するボマーのDホイール。だがその結果、三体のリアクターが場にそろってしまった

「さらに私は畏カード『デルタ・リアクター』を発動！自分フィールドに存在するサモン、マジック、トラップの三体のリアクターを墓地に送り『ジャイアント・ボマー・エアレイド』を特殊召喚する！」

ジャイアント・ボマー・エアレイド
ATK3000

フィールドに現れる巨大な爆撃ロボット。威圧感がすごい

「ジャイアント・ボマー・エアレイドには相手ターンに1度、相手がモンスターを召喚、特殊召喚したとき。またはカードをセットしたとき、そのカードを破壊し800のダメージを与えることができる！鋼野 龍一！これで貴様の動きは封じられた！」
ボマーの発言に不適な笑みを浮かべる龍一

「たしかにその効果は厄介だが、発動できるのは1ターンに1度。突破口はいくらでもある！（だが今は行動できない。ならば時期を待つのみ！）俺はこのままターンエンド！」

龍一

LP：4000

手札：4

モンスター：2

魔法・罫：2

龍一SPC4 5

ボマーSPC3 4

「私のターン！私はジャイアント・ボマー・エアレイドでセイバーソルジャーを攻撃する！」

ジャイアント・ボマー・エアレイドの放つ銃弾がセイバーソルジャ

―を蜂の巣にする

「ぐわあ！」

龍一 LP 4000 2700

龍一 SPC 5 4

「くつ、畏カード『機械量産工場』を発動！自分フィールドの機械族モンスターが破壊されたときデッキから星4以下の機械族モンスターを特殊召喚する！来い、『OM キングゲイナー』！」

OM キングゲイナー

星4

ATK 1800

DEF 600

効果

このモンスターは攻撃力を半分にして相手に直接攻撃することができる

相手が攻撃宣言をしたとき1度だけ無効にすることができる

「ならばジャイアント・ボマー・エアレイドの効果を発動する。手札を1枚捨て今特殊召喚したモンスターを破壊させてもらう！やれ、デス・ドロップ！」

ジャイアント・ボマー・エアレイドから爆弾がキングゲイナーにむけて投下される

「ただじゃ破壊されない！俺は畏カード『オーバーヒート』を発動！自分フィールド上にキングゲイナーが存在するとき相手モンスターを1体選択し破壊、その後破壊したモンスターの攻撃力の半分のダメージを相手に与える！」

キングゲイナーに爆弾が当たり爆発がおこる。しかし爆発の中から赤く光るキングゲイナーが飛び出し腰の剣を構えジャイアント・ボマー・エアレイドに突っ込む。キングゲイナーはジャイアント・ボマー・エアレイドの体内で爆発しジャイアント・ボマー・エアレイドは粉々になり破片がボマーに降り注ぐ

「ぐわあああ！」

ボマーLP 1600 100

ボマーSPC 4 3

「くううう、私はチューナーモンスター『ブラック・ボンバー』を召喚！さらに効果で墓地に眠るトラップ・リアクター・RRを特殊召喚する！」

ブラック・ボンバー

ATK100

トラップ・リアクター・RR
DEF1800

「星3ブラック・ボンバーに星4トラップ・リアクターRRをチユ
ーニング！闇から出でよ、鉄血の翼！黒き暴風となりて、全ての敵
に死を与えん！シンクロ召喚！現れよ、ダーク・ダイブ・ボンバ
ー！」

ダーク・ダイブ・ボンバー
ATK2600

「さらに罠カード『アルティメット・マイン』を発動！私の場にア
ルティメット・マイントークンを特殊召喚する！」

アルティメット・マイントークン
DEF0

「次のターンで決着をつける。ターンエンドだ」

ボマー

LP:100

手札:2

モンスター：2

魔法・罾：0

「（このままじゃ負けるな）俺の!?」
その時龍一の動きが止まった

「（な、なんだこの頭痛は!?!、意識が……）……
く、くくくくく!俺様のターン!罾カード『マルチアイアンライ
ン』を発動!手札の機械族モンスターを任意の数除外することで除
外した数だけ自分フィールドにマルチアイアントークンを特殊召喚
する!俺様は2枚除外!」

マルチアイアントークン

ATK500

「さらに『Sp・エンジェル・バトン』を発動。2枚ドロし1枚
捨てる。そしてマルチアイアントークン2体をリリースし現れる」
-嫉妬-レヴィアタン!」

フィールドに姿を現す嫉妬の悪魔。会場が恐怖に包まれる

「な、なんだそのモンスターは!」

「レヴィアタンの攻撃力は元々の数値に相手のフィールドで1番攻
撃力の高いモンスターの分アップする!よって攻撃力3600!」

-嫉妬・レヴィアタン
ATK3600

「なに！」

「やれ！レヴィアタン！愚かな現世の住人に裁きをください！Une explosion de la jalousie！」
レヴィアタンからエネルギーの弾のようなものが放たれダーク・ダイブ・ボンバーに直撃する。すると巨大な爆発がおこりボマーのDホイルは粉々になりボマーは吹き飛ばされ壁にたたき付けられる

ボマーLP1000

「くくくくく、フハハハハ！」

静かになった会場に龍一の笑い声が響いた

神界

仮様がモニターから会場の様子を見ている。後ろには天使の羽をはやした女性が立ってモニターを見ている

「やばいね、覚醒しかけている」

「最高神様、やはりあの時殺しておくべきだったのでは？」

「彼の中の龍一には罪はない。罪を犯したのはあれなんだ。それに僕は龍一が好きだしね。だからこそ龍一が汚染される前にやつをなんとかしないと」

「最高神様……」

悲しそうな顔をする女性。仮様は真剣な表情で高笑いを続ける龍一を見ていた

5 D・S 編第四話 VS ボマー。龍一の罪（後書き）

次はコラボになると思います

一周年だから一度コラボした人ともう一度コラボしてみたよ編 鋼VS鋼(前書)

今回は冬將軍さんの『遊戯王GX』『遊戯王ZEXAL』とのコラボです。冬將軍さんのところとは内容が違いますのでご注意ください

一周年だから一度コラボした人ともう一度コラボしてみたよ編 鋼VS鋼

龍一が部屋でデスクをいじっていると窓ガラスを割り男が侵入してきた

「な、なんだ!」

男は龍一にバズーカをむける

「コラボに逝ってこい!」

そのままバズーカをぶっ放す

「ちよっ、いくの文字が違、ぐはっ!」

「うん。ここは?」

龍一が目を覚ますといつのまにか電車の中だった

「うん?手紙?」

足元を見ると手紙が落ちている

「ええーと」今、冬将軍さんから連絡があつたのだが事情があつて誠はこれないそうだ。そこで代わりに誠の友人を送り込んだらしい。

なおその友人は転生者ではないので注意するように』か。誠の友人ね、この車両にはいないみたいだし進んでみるか」
そう言うと今いる車両をでていく龍一。しばらく車両を進んでいく

「お、ここみたいだな」

一組の男女を見つけたので話しかける龍一

「あんた達が誠の友人かい？」

「ああそうだが。あんたは？」

男のほうで龍一に聞いてくる

「俺の名は鋼野龍一。あんたらは？」

「俺は空栗 真間。で、こっちが」

「七野 雪といます。よろしくお願いします鋼野さん」

真間にうながされ女のほうも自己紹介をする

「いや、龍一でいい。誠にもそうよんでもらってるしな」

そこで龍一はふと疑問に思いデッキからカードを一枚取り出し真間達に見せる

それと同時にラハールが龍一の後ろに現れる

「二人ともこいつを見てくれるか」

「なんだ？鋼鉄神 ラハール？」

「すごい効果ですね」

二人には龍一の後ろのラハールは見えていないようだ

「なるほど二人には精霊は見えないのか」

「「精霊？」」

首をかしげる二人

「いや、こつちの話だ。気にしないでくれ」

そういつて龍一はラハールのカードをしまう

「そういや龍一。前に誠と会ってるんだよな？じゃあここから帰る方法も知ってるのか？」

「前はデュエルをしたら戻れたな。おそらく今回もそうだろう」

「そうですか」

その時車内にお腹のなる音が響く

龍一と真間の視線が雪のお腹にむく

「あ、あははは、なんか安心したらお腹がすきましたね」

「確かに、お腹がすいたな」

「そういえば前は誠がお土産持ってきてたな。作者から預かったていつて」

「そういえば私作者さんから預かってるものがあります」

雪はなにやら大きな袋を取り出す

「お、なつかしいな。白い恋人にワカサイモ。ロイズのチョココレートチップスにカツゲイン。おまけにキビダンゴか」

「キビダンゴ？キビダンゴなんてないぞ？」

「いや、どう見てもこれだろ」

そう言っつて真間は板状のお菓子の袋を手にとる

「それがキビダンゴなんですか？」

「そうか、内地の人にはわからないか。北海道でキビダンゴっていったらこういふ板状の味がついたお餅がオブラートのような物に包まれてるやつをいうんだ」

「しかし見事にお菓子類しか入ってないな」

「とりあえず食べようぜ」

数分後

全てのお菓子を平らげると列車が駅のような場所で停車した

「ついたのか？」

「そうみたいですな、降りますか」

「そうだな。車内でデュエルするわけにもいかないしな」
電車から降りる三人。降りた先は駅のホームではなく広いスタジアムのような場所だった

「なるほど、ここでデュエルしろってことか」

「みたいだな。じゃあ早速始めるか」

「ああ、誠に勝ったという腕前を見せてもらっせ」
互いに距離をとり真間はデュエルディスクを展開し龍一は左腕をデュエルディスクに変形させる

「デュエル!!」

「俺からいかせてもらっせ。俺のターンドロ―！俺は『鋼鉄戦士
ギガスパイダー』を攻撃表示で召喚！」
龍一の場にやたら刺のある機械の蜘蛛が現れる

鋼鉄戦士 ギガスパイダー

星5

ATK2200

DEF 1500

効果

このモンスターは攻撃力を500さげることによって生贄なしで通常召喚することができる

「星5のモンスターを生贄なしで召喚ですか!？」

「こいつは攻撃力を500下げることによって生贄なしで召喚できるのでよって今のこいつは攻撃力1700!俺はカードを2枚伏せターンエンド!」

龍一

LP:4000

手札:3

モンスター:1

魔法・罠:2

「俺のターンドロ!俺は『純金犬マロン』を守備表示で召喚する」

純金犬マロン

星4

ATK1000
DEF1000

効果

このカードが戦闘によって破壊された時お互いのプレイヤーはデッキからカードを1枚ドローする。このカードがカードの効果によって破壊されたときプレイヤーはデッキからカードを2枚ドローする

「俺はこれでターンエンドだ」

真間

LP：4000

手札：5

モンスター：1

魔法・罫：0

「俺のターンドロー！」

引いたカードを見ておもわず苦笑する龍一

「（手札のモンスターは攻撃力の低いモンスターばかり。へたに攻めるのは危険だな。なら）俺はギガスパイダーで純金犬マロンを攻撃する！」

ギガスパイダーが純金犬マロンを粉々にかみ砕く

「このとき純金犬マロンの効果発動、戦闘破壊されたときお互いのプレイヤーはデッキからカードを1枚ドローする」
言われたとおりデッキからカードをドローする龍一

「（これなら、まあなんとかなるかな）俺はモンスターを裏側守備表示でセットしてターンエンド！」

龍一

LP：4000

手札：4

モンスター：2

魔法・罫：2

「俺のターン、俺は『カードガンナー』を攻撃表示で召喚」

カードガンナー

ATK400

「カードガンナーの効果を発動！デッキの上からカードを3枚墓地に送り攻撃力をエンドフェイズまで1500アップする！」

カードガンナー

ATK400 1900

「カードガンナーでギガスパイダーを攻撃！」

カードガンナーから放たれたレーザーがギガスパイダーを撃ち抜く

龍一 LP 4000 3800

「くっ、リバースカードオープン！『罰則金』！相手モンスターが俺のモンスターを戦闘によって破壊したときそのモンスターを手札に戻しさらに300ポイントのダメージを与える！」

真間 LP 4000 3700

「これくらい！俺はカードを2枚伏せターンエンド！」

真間

LP：3700

手札：5

モンスター：0

魔法・罫：2

「俺のターンドロー！まずは『手札抹殺』を発動。お互いに手札をすべて捨てその後捨てた枚数分ドローする。俺は4枚ドロー！」

「くっカードガンナーが」

「さらに裏守備モンスターの『鋼鉄戦士 ツイン・クラスタ』を生贄に捧げる。ツイン・クラスタは機械族モンスターの生贄素材になるとき1体で2体分の生贄となる」

「ダブルコストモンスターか」

「その通り俺は『鋼鉄戦士 ハックスナイパー』を攻撃表示で召喚
！」

胸に大きく89と書かれたライフルを担いだロボットが龍一のフイ
ールドに現れる

鋼鉄戦士 ハックスナイパー

星8

ATK2600

DEF1000

効果

1ターンに1度、相手モンスターの攻守を800下げることができる

「いくぜハックスナイパーでダイレクトアタック、ハックショット
！」

ハックスナイパーがライフルを構え撃つ。ただ弾丸の量があきらか
におかしい。89の弾丸が真間へとむかう

「させるか！カウンター罠『攻撃の無力化』を発動！」

真間の前に現れたうずが弾丸を全てすいこむ

「防がれたか。なら俺はこれでターンエンドだ」

龍一

LP：3800

手札：3

モンスター：1

魔法・罫：1

「俺のターンドロウ」

ドロウしたカードを見ながら長考する真間

「よし、この手でいく！俺は『死者蘇生』を発動。龍一、お前の墓地のツイン・クラスターをいただくぜ。そしてツイン・クラスターを生贄に『ゴールドフット』を召喚！」

真間の場に金色のピカピカした口ポットが現れる

ゴールドフット

星7

ATK2200

DEF2400

効果

自分フィールド上の魔法カードとトラップカードを1枚ずつ墓地に送ることで相手フィールド上の魔法・罫をすべて破壊する

「わざわざ攻撃力の低いモンスターを攻撃表示で召喚？なにをするきだ？」

「こうするんだよ。俺は『ガチバトル』を発動！」

ガチバトル

通常魔法

互いのモンスターゾーンに星7以上の表側攻撃表示モンスターが1体しか存在しない時のみ発動できる。このターンのバトルフェイズ中互いのモンスターは攻撃力と守備力を合計した数値でバトルを行う。互いのモンスターはバトルフェイズ終了時までこのカードの効果以外で攻撃力は増減されない

「このカードの効果でお互いの星7以上のモンスターは攻撃力守備力の合計値でバトルを行う」

ゴールドフット

ATK 2200 4600

鋼鉄戦士 ハックスナイパー

ATK 2600 3600

「バトル、ゴールドフットでハックスナイパーを攻撃ゴールドストライク！」

ゴールドフットが光り輝く足でハックスナイパーの体を貫き破壊する

龍一 LP3800 2800

「くっ、だがりバースカードオープン『受け継がれる勇者の魂』！」

受け継がれる勇者の魂

通常罫

自分フィールド上の機械族モンスターが破壊されたとき発動できる。
自分のデッキ、手札から『勇者エクスカイザー』を1体特殊召喚する

「このカードの効果で俺はデッキから『勇者エクスカイザー』を特殊召喚する！こいエクスカイザー！」
発動されたりバースカードから1台の車が飛び出してくる。車は変形し1体の人型ロボットになる

『チエンジ、エクスカイザー！』

勇者エクスカイザー

星4

ATK1700

DEF1100

効果

手札の星7以上の機械族モンスターを墓地に送ることによってデッキから『キングローダーか『ドラゴンジェット』を手札に加えることができる

「ずいぶんとカッコイイロボットがやってきたな。俺はこのままターンエンドだ」

ゴールドフット

ATK4600 2200

真間

LP:3700

手札:3

モンスター:1

魔法・罫:1

「俺のターンドロ！さて、まずはエクスカイザーの効果を発動。手札の星7以上の墓地に送りデッキから『キングローダー』を手札に加える。そしてそのまま召喚！」

『キングローダー!!』

エクスカイザーの掛け声とともに額から光が放たれ地平の彼方を照らす。そして照らされたところから巨大なトレーラーが走ってくる

キングローダー

星5 ユニオン

ATK1200

DEF2000

効果

自分フィールド上に『勇者エクスカイザー』が表側表示で存在する場合このカードは生贄なしで召喚することができる。1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとして自分フィールド上の『勇者エクスカイザー』に装備、または装備を解除して表側守備表示で特殊召喚することができる。このカードを装備しているモンスターが戦闘によってモンスターを破壊したときデッキからカードを1枚ドロウする。1体のモンスターが装備できるユニオンは1体まで。装備モンスターが効果によって破壊される場合、代わりにこのカードを破壊する

「キングローダーをエクスカイザーにユニオン」
キングローダーの上に乗っかるエクスカイザー

「だが攻撃力は変わらないぞ」

「まあ見てな、俺は融合デッキの『キングエクスカイザー』の効果を発動！フィールドのキングローダーをユニオンしたエクスカイザーを生贄にささげることによりこのカードを特殊召喚する。合体するエクスカイザー！」

エクスカイザーが大きく飛び上がるとキングローダーが変形を開始し人の形になる。そして前の部分が開きそこにエクスカイザーが飛び込む

『フォームアップ！』

前の部分が閉じ、頭に顔が現れマスクがされる。腕が飛び出し胸に獅子の顔が現れる

『巨大合体、キングエクスカイザー!』

キングエクスカイザー

星8

ATK2500

DEF2000

融合 効果

このカードは自分フィールド上の『キングローダー』を装備している『勇者エクスカイザー』を生贄にささげること融合デッキから特殊召喚することができる(融合のカードを必要としない)。このモンスターが戦闘によって破壊した効果モンスターの効果を無効にする

「キングエクスカイザーでゴールドフットに攻撃!」

『サンダアアフラアアッシュ!』

キングエクスカイザーが手にとった剣でゴールドフットを縦半分に切り裂く

真間LP3700 3400

「すごいです！上級モンスターの応戦につぐ応戦」

「だがLPはまだ俺のほうが上だぜ」

「わかってるさ。俺はカードを1枚伏せターンエンドだ」

龍一

LP：2800

手札：1

モンスター：1

魔法・罠：1

「俺のターン！さて早速だがそのモンスターには退場してもらっせ」

「面白い、やってみな」

「いくぜ、まずは『ミサイルスナイパー』を攻撃表示で召喚」

ミサイルスナイパー

星4

ATK1500

DEF1000

効果

自分フィールド上のミサイルトークンを1体生贖にささげること
で相手フィールド上のモンスター1体の攻撃力をターン終了時まで500
ダウンさせる

「さらにリバーズ発動『ゲットライド』。この効果で墓地に眠る『強化支援メカヘビーウェポン』をミサイルスナイパーにユニオン。そしてユニオンを解除」

「なにをするきだ？」

「こうするのさ。魔法カード『ミサイル複製術』を発動！自分フィールド上の機械族モンスター1体を生贄にささげることです。そのモンスター1体の星分、俺のフィールドにミサイルトークンを特殊召喚する！俺は強化支援メカヘビーウェポンを生贄にささげミサイルトークンを3体特殊召喚する」

ミサイルトークン×3

ATK500

「ミサイルスナイパーの効果発動、ミサイルトークンを1体生贄にささげることです。相手モンスター1体の攻撃力を500ダウンさせる。そしてこの効果は1ターンに何度でも使える！ミサイルトークンを3体とも生贄にささげキングエクスカイザーの攻撃力を1500ダウン！」

ミサイルトークン3体がミサイルスナイパーのロケットランチャーに装填されミサイルスナイパーはそれをキングエクスカイザーにむけて放つ

キングエクスカイザー

ATK 2500 1000

「バトル、ミサイルスナイパーでキングエクスカイザーに攻撃」
ミサイルスナイパーが腰につけていた手榴弾を投げキングエクスカイザーを粉々にする

『ぐわあああ！』

龍一 LP 2800 2300

「く、まだだ。まだ勇者は終わってない！畏カード『受け継がれる太陽の翼』！このカードは自分フィールドの機械族モンスターが破壊されたとき！デッキまたは手札から『太陽の勇者ファイバード』を特殊召喚する！こい！ファイバード！」

龍一のフィールドに1機の戦闘機が現れ変形し人型のロボットになる

『チエンジ、ファイバード！』

太陽の勇者ファイバード

星 4

ATK 1500

DEF 1000

効果

このカードは相手の魔法・罠カードの効果を受けない

「またすごいそうなのがでてきたな。俺はカードを1枚伏せてターンエンドだ」

真間

LP：3400

手札：0

モンスター：1

魔法・罫：1

「俺のターンドロ―！ふっ、悪いが真間。このターンで決めさせてもらっぞ！」

「面白いじゃねえか。来い！龍一！」

「いくぜ！まずは『命削りの宝札』を発動！手札が5枚になるようにドロ―する。そして俺はチューナーモンスター『フレームプレスター』を攻撃表示で特殊召喚！」

『フレームプレスター！』

ファイバードの掛け声に呼応し1機の戦闘機が現れる

フレームプレスター

星4

ATK1200

DEF1000

効果

自分フィールド上に『太陽の勇者ファイバード』が存在するとき、このカードは手札から特殊召喚することができる

「チューナー？」

「いくぜ星4ファイバードに星4フレイムプレスターをチューニング！優しさを連れて羽ばたけ、寂しさを越える太陽の翼！シンクロ召喚！BURNIN UP！」

ファイバードにフレイムプレスターが覆いかぶさるように合体する

「『武装合体ファイバード！』」

武装合体ファイバード

星8

ATK2500

DEF2000

効果 シンクロ

機械族チューナー＋太陽の勇者ファイバードを含むモンスター1体以上

このカードのシンクロ召喚に成功したとき、デッキから『フレイムソード』のカードを手札に加えることができる。このカードが破壊されたとき、墓地に存在する太陽の勇者ファイバードを特殊召喚できる。1ターンに1度相手の発動する除外、破壊の効果を持つカードの発動を無効にして破壊する。このカードが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた時、このカードのコントローラーはそのダメージ分ライフを回復する

「シンクロ召喚？聞いたことのない召喚方法だな」

「ああ、シンクロ召喚ってのはチューナーとチューナー以外のモンスターを墓地に送りその星の合計と同じ星を持つシンクロモンスターを融合デッキから特殊召喚する召喚方法だ」

「なるほどさすが異世界のデュエリストだな」

「続けるぜファイバードの効果で俺は『フレイムソード』を手札に加えそのまま装備する」

ファイバードが1本の剣を構える

「さらに俺は『勇者のエンブレム』を発動。墓地の勇者エクスカイザーを除外しファイバードの攻撃力を1000上げる！」

武装合体ファイバード

ATK2500 3500

「いくぜファイバードでミサイルスナイパーを攻撃する！そしてこの時フレイムソードの効果を発動！LPを払うことで払ったぶんだけ攻撃力をアップする！俺はLPを2000払う！」

『フレイムソードチャージアップ！』

龍一 LP 2300 300

武装合体ファイバード

ATK 3500 5500

「させるか。罨カード『聖なるバリア』ミラーフォース』」

「無駄だぜファイバードは1ターンに1度カードを破壊する効果を無効にし破壊する！エクスカイザーの意思を継ぎ、決める！ファイバード！」

ファイバードの後ろにキングエクスカイザーの幻が現れファイバードの動きに合わせ剣を振りかぶる。そして一気にミサイルスナイパーを切り裂く

「ぐわあああ！」

真間 LP 3400 0

「ハッハッハ、最高だったぜ龍一」

「真間も、最高のデュエリストだぜ」

互いの健闘をたたえがしつと握手する二人

「誠にも言っただけどまたデュエルしような」

「ああ」

互いの腕が離れると同時に三人の体が光の粒子となり足元から消滅していく

「今度は誠と一緒に会おうぜ。俺もダチを紹介するからよ」

「ああ、楽しみにしてるぜ」

そうして、完全に三人の姿は消滅していった

「よつと、どうやら帰って」り、龍一？」「ん？」「ん？」

目の前には着替え中だったのだろつ下着姿のツァンが……………

「……………お前結構胸でか」「死ねっ！」「ぐはっ！」

一周年だから一度コラボした人ともう一度コラボしてみたよ編 鋼VS鋼(後書

次回は本編を更新する予定です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1098m/>

遊戯王 鋼鉄の旅人

2011年12月11日10時48分発行